

史跡 武田氏館跡Ⅺ

— 第57次～第64次調査報告書 —

2003

甲府市教育委員会

序

甲府のまちは、永正16年（1519）に武田信虎が川田の館を引き払い、躑躅ヶ崎の地に新たな居館を造営したことに始まります。爾米、山梨県の中心都市としてめざましい発展を遂げて参りましたが、480年を越える長い歴史の中で培われた文化や伝統は実に多彩で、これらを活力あるまちづくりに活用していくための積極的な施策の展開が今日的な課題となっております。

こうした中、本市がとりわけ力を注いでいるのが国史跡武田氏館跡の保存・整備事業でございます。住宅建設などに伴いまして県・市教育委員会で進めて参りました発掘調査は既に65次に及び、56次調査までの成果は『史跡武田氏館跡Ⅶ』（平成12年度）・『同Ⅷ』（平成13年度）等として編集・刊行させていただきました。また、平成7年度に着手しました学術発掘調査では、戦国大名武田氏の築城技術や生活文化を解明する上で極めて重要なデータの数々を提示することができ、喜ばしい限りでございます。

史跡の発掘調査には相当な労力と時間を要しますが、地道な作業の積み重ねにより甲府発展の礎ともいえる武田氏館の全容が明らかとなり、歴史・文化を活かしたまちづくりの中核施設として活用が図られていくものと考えます。

本書には57～64次調査の成果を報告しております。調査の実施にあたり御指導と御鞭撻をいただきました文化庁・山梨県教育委員会、及び地元関係者の皆様は心より御礼申し上げますとともに、引き続きの御力添えを御願ひ申し上げます。

平成15年3月12日

甲府市教育委員会
教育長 角 田 智 重

例 言

1. 本書は、山梨県甲府市古府中町・屋形三丁目・大手三丁目地内に所在する国史跡武田氏館跡の現状変更に伴う発掘調査の報告書で、第57次調査（平成10年度）から第64次調査（平成13年度）までを収録している。なお、第59次（平成10年度）調査については、『史跡武田氏館跡VI』に報告済みである。
2. 本書に収録した調査は、文化庁・県教育委員会の指導のもと、甲府市教育委員会が主体となって実施した。調査経費は国・県の補助金の交付を受けた。
3. 調査は、志村憲一・平塚洋一・伊藤正彦・佐々木満の各文化財主事及び、望月小枝（駒沢大学卒）・内藤かおり（信州大学卒）の発掘調査員が担当した。
4. 各調査に付した番号は、山梨県遺跡調査団・山梨県教育委員会・甲府市教育委員会が実施した武田氏館跡関係調査の通算次数を示す。
5. 本書の編集・執筆は、中込 功（文化芸術課長）を編集責任者とし、鈴木由香（法政大学卒）が行った。
6. 本書の挿図は、鈴木由香及び、栗田かず子・内藤真千子・中村里恵・林久美子・望月小枝が作成した。
7. 本書に係わる出土遺物及び記録図面・写真等は甲府市教育委員会が保管している。
8. 発掘調査にあたり、土地所有者の御協力を賜った。また、報告書の作成にあたり、次の方から御指導をいただいた。
瀬戸市埋蔵文化財センター・藤澤良祐
平泉町文化財センター・鹿野里絵
(敬称略)
9. 調査参加者
雨宮英郎 池谷富士子 岡 悦子 小沢菊太郎 岸本美苗 倉田勝子
栗田宏一 小池孝男 小宮通子 坂本しのぶ 佐田金子 佐田 昇
清水公子 知見寺照子 長澤晴雄 根岸利昭 花曲敬子 平沢則子
保坂邦雄 本道歌子 本道政清 望月貴美子 渡辺百合子
(敬称略)

凡 例

本書に掲載した遺構図・遺物実測図は以下のとおりである。

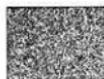
1. 遺構・遺物番号は、各調査地区単位で通し番号とした。
2. 遺構名は、各遺構の性格や形状に応じて名称を付したが、名称・番号は、将来、面的な調査等により全体の把握がなされた場合、変更が生じる可能性がある。よって、本書で付した遺構名・番号は暫定的なものとする。
3. 全体図・遺構・遺物実測図の縮尺は、図面上に表示したスケールのとおりである。
4. 挿図中のE・W・S・Nは、東・西・南・北を表す。
5. 調査区位置図には、甲府市都市計画図（1/2500）を使用した。
6. 遺物観察表中の色調は「標準土色帖」（農林水産省農林水産技術会議事務局監修 1997後期）に基づいて記載した。
7. 実測図内のスクリーン・トーン指示は以下のとおりであるが、一部個々の図面上に表示したものがある。



石



熔融物



攪乱



焼土

目 次

序	
例	言
凡	例
目	次
調査区一覧表	
調査区位置図	

第 1 章 武田氏館跡周辺調査

1	第57次調査 (古府中町3555)	1
2	第58次調査 (屋形三丁目2520-15)	15
3	第60次調査 (古府中町3532・3536)	16
4	第61次調査 (大手三丁目3708-3)	21
5	第62次調査 (古府中町3575-1)	26
6	第63次調査 (古府中町2777-2・2779-1・2780)	28
7	第64次調査 (大手三丁目3748-2・3748-7)	31

第 2 章 小 括

調査区一覧表

調査回数	所在地	調査原因	調査面積	調査期間	遺構	遺物	備考
第57次	古府中町3555	数野室宅全面改築工事	76㎡	平成10年9/28 ～11/9	ピット・石列・溝・ 七坑・井戸・ 孤立柱建物跡	かわらけ・播鉢・香炉・ 陶器・染付・白磁・石臼・ 銭貨	
第58次	屋形三丁目2520-15	越水邸宅増築工事	10㎡	平成10年11/2 ～10	なし	なし	
第59次	古府中町2611	武田神社石垣改修工事	60㎡	平成10年11/30 ～1/19	土塁	かわらけ・瀬戸灰遣・ フイゴの羽口・石臼	「館跡VI」で 報告済み
第60次	古府中町3532・3536	谷川義孝宅駐車場造成工事	127㎡	平成10年2/18 ～24	土坑・ピット	かわらけ・播鉢・須恵 器・鉄製品	
第61次	大手三丁目3708-3	数野信宅建築工事	122㎡	平成11年1/19 ～2/5	ピット・溝・土坑	かわらけ・青磁・白磁・ 銭貨	
第62次	古府中町3575-1	川島和人家新築工事	22㎡	平成11年5/31 ～6/3	ピット	なし	
第63次	古府中町2777-2他	スポット公園整備工事	350㎡	平成12年2/23 ～29	なし	かわらけ・鉢・土製品	
第64次	大手三丁目3748-2・7	宅地分譲	60㎡	平成13年10/19 ～11/2	ピット・溝・井戸	かわらけ・鉄製品	

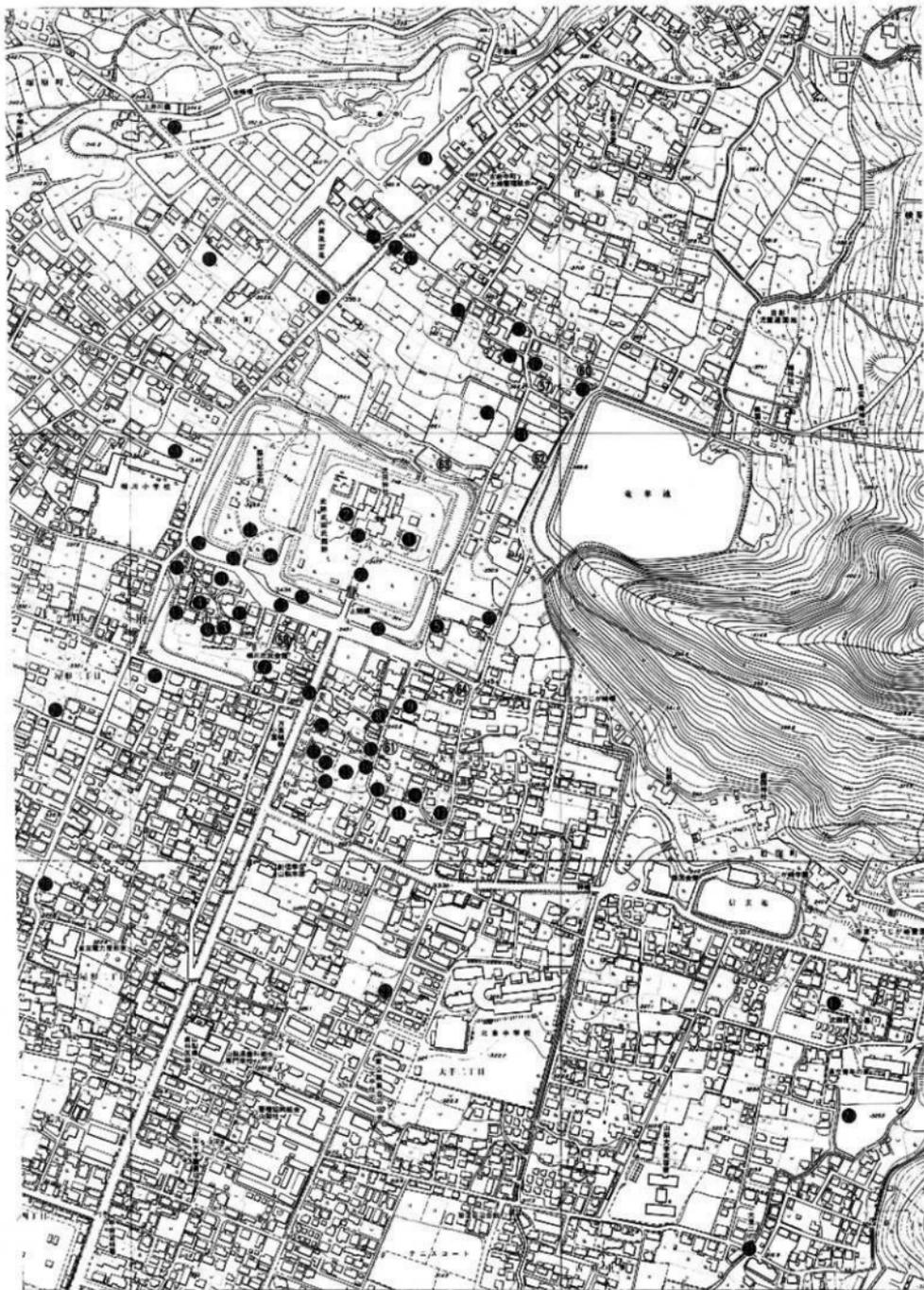


図1 調査区位置図

0 200m

武田氏館跡第57次調査

所在地 古府中町3555
調査原因 数野宝宅全面改築工事
調査面積 76㎡
調査期間 平成10年9月28日～11月9日
調査担当者 望月小枝



調査の概要

東側に流れる藤川、西側に流れる相川によって形成される相川扇状地の扇中部に位置し、標高363mを測る。武田氏時代からの古籠屋小路に西接しており、周辺街路も古絵図に記載が見られるなど当時の様相を残している地域である。現在は田畑が点在する住宅地で、市内を一望できる緩傾斜地である。

調査は8×13.5mの調査区の四隅に2×2mのトレンチを設定し、人力による掘り下げを行った。遺構の検出によって各トレンチを掘り進め、調査区全面を調査した。

遺 構

溝2条、土坑3基、ピット52基、柱穴14基、井戸1基が確認された。

溝 1号溝は最大幅70cm、深さ9cmを測り、N-142°-Eに軸をもつ。かわらけの破片が数点出土し、中世に機能していたものと思われる。2号溝は最大幅80cm、深さ23cmを測る。調査区西端で屈曲し、一部に石列を伴い調査区外に続く。完形のかわらけの他、大窯1または2段階に位置づけられる皿や碗等が出土し、16世紀代に位置づけられる。

土 坑

1号土坑は不正楕円形を呈し、長径55cm、深さ45cmを測る。直径10cm程の礫を伴い、内部にはかわらけが割られた状態で置かれていた(図5-1)。2号土坑は不正楕円形を呈し、長径90cm、深さ20cmを測る。かわらけが1点出土している(図5-11)。3号土坑は隅丸方形を呈すると思われ、長径80cm、深さ10cmを測る。出土遺物はない。



図1 第57次調査区位置図

ビット 直径10～60cm、深さ10～70cmを測る。調査区中央部のやや南側寄りのビット群は掘立柱建物跡で、調査区最西端でも同様な構成をとる柱穴列が確認された。掘立柱建物跡はビット間隔に1m80cmの規則性が見られ、N-146°-Wに軸をもつ。1号溝と重複するビット17は、溝底を掘り込んでいる。1号柱穴列はビット間隔に1m20cmの規則性が見られ、N-125°-Eに軸をもつ。ビット52が2号溝と接し、壁面層の堆積状況から両者は同時期に存在していたものと推測される。周辺には、直径5～20cm程度の礫が敷き詰められていた。これらのビットはかわらけを主とした遺物を伴っており、16世紀代に位置づけられる。

柱 穴 直径10～30cmの礫を伴い、1m20～30cm間隔の規則性をもつ柱穴列が確認された。調査区北側壁面層の堆積状況からは、上層部から掘り込まれている様子が観察でき、他のビットよりも新しいものであることが判断できる。東西方向はN-147°-Wに、南北方向はN-122°-Eに軸をもち、1号柱穴列や掘立柱建物跡とほぼ同軸を示す。内部からは、かわらけの破片が数点と近代のガラス瓶などが出土している。

井 戸 調査区最東端で確認され、調査区外へ続く。出土遺物はない。

遺 物

かわらけ(1～67)、土器(68・76)、播鉢(70・73・75・77・78・79)、香炉(69・71・72)、片口土器(74)、国産陶器(80～92)、染付(93～97)、石製品(98・99)が出土した。

かわらけはいずれもロクロ成形で、底部に回転糸切痕を残す。3・11・12・21・22・54は炭化物が付着し、二次的使用の痕跡を残す。29は底部穿孔かわらけである。国産陶器の87～92は見込みに菊印をもつ端反皿または丸皿で、大窯1～2段階に比定される。

ま と め

調査の結果、規則性をもつ柱穴列・掘立柱建物跡が確認され、中世における建物跡の様相を知る手がかりとなる成果を得ることができた。2号溝・1号柱穴列・掘立柱建物跡は、接触するビット52と同層で掘り込まれている様子が層の堆積状況から窺え、出土遺物も同時期に比定される。1号柱穴列は建物が調査区西側へ広がるものと推測され、これと掘立柱建物跡の間に走る2号溝が境界線的な機能をもって存在したものと考えられる。礫を伴う柱穴列は他のビット群よりも上層から掘り込まれており、比較的新しいものであるが1号柱穴列や掘立柱建物跡とほぼ同軸を示し、前時期の建物軸に合わせた設計を行っている。この他にもビットが点在しており、数回に渡る建物の建て替えが行われていた様子が窺える。

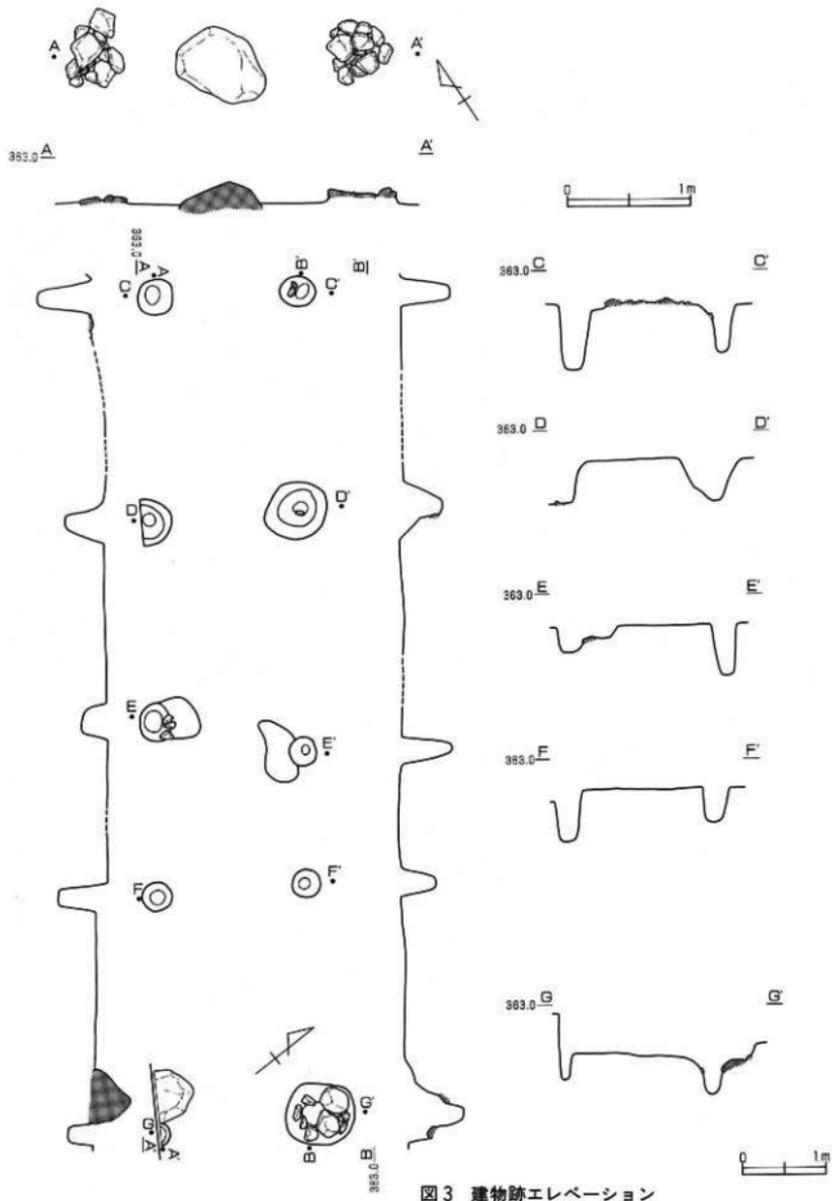


図3 建物跡エレベーション

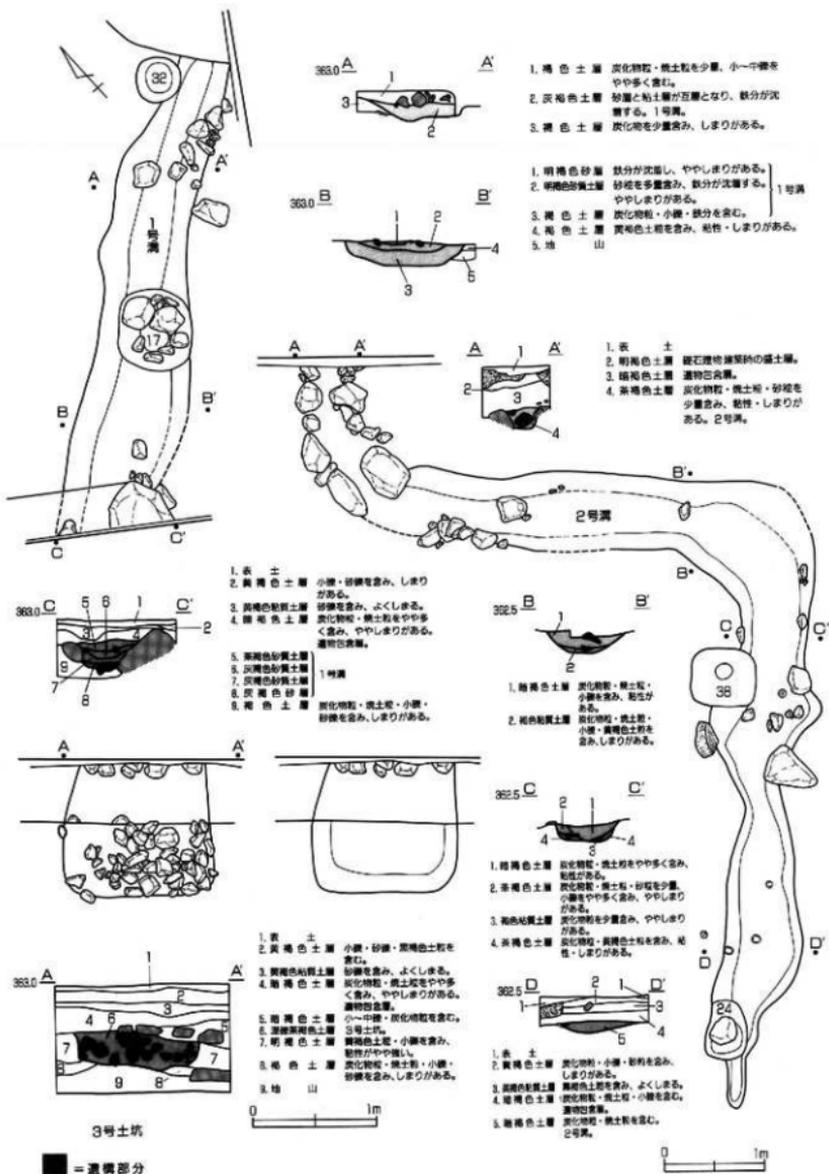


図4 1号溝・2号溝・3号土坑

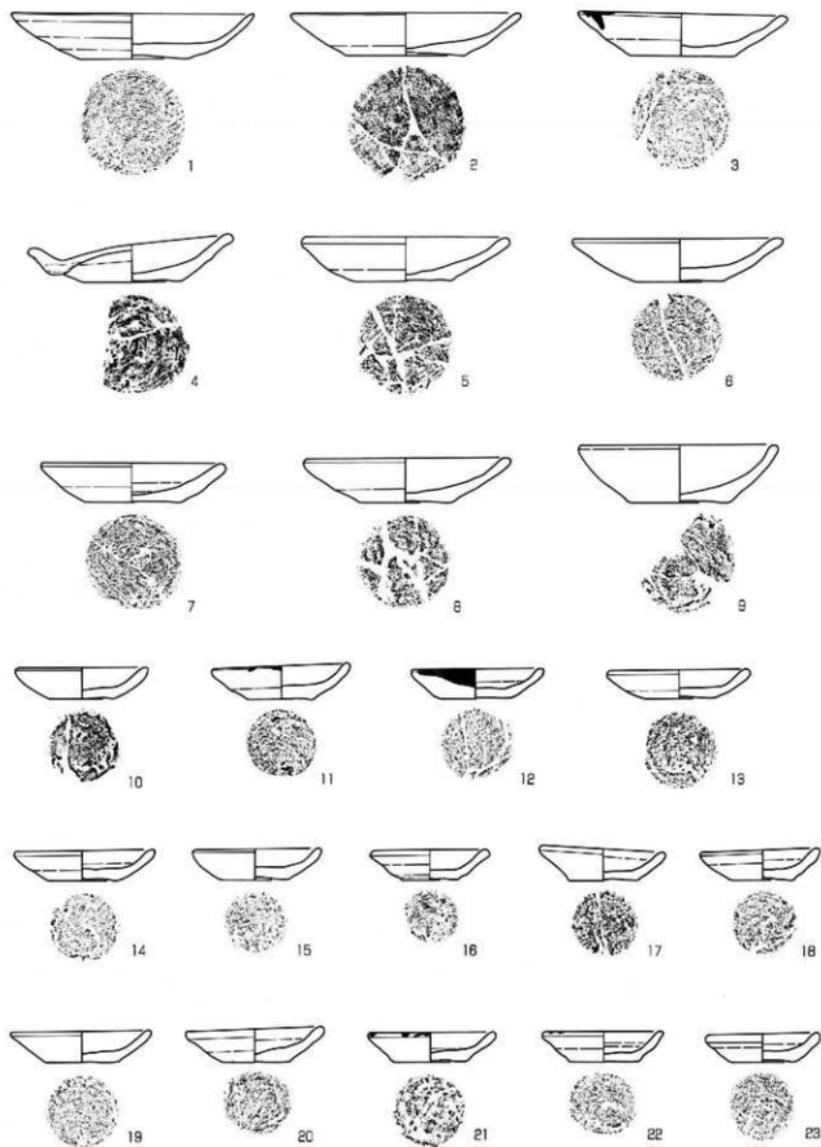


图5 第57次調査出土遺物(1)

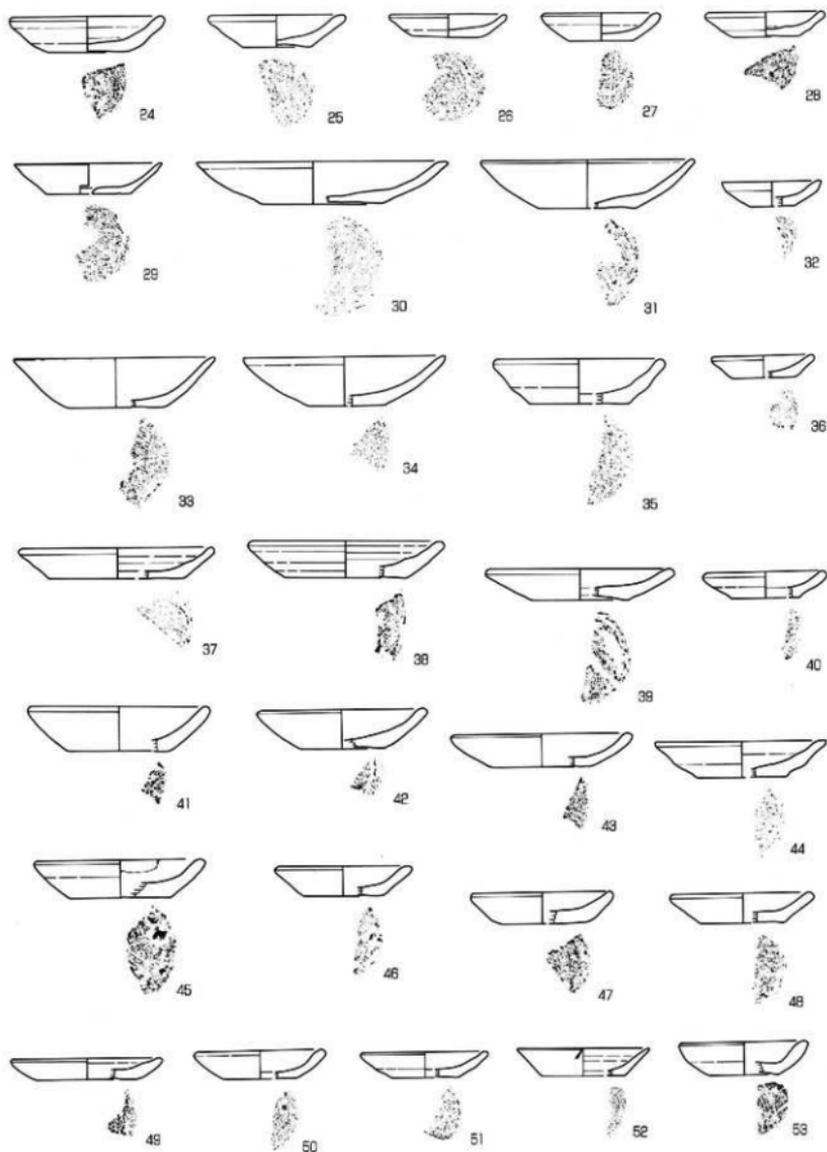


図6 第57次調査出土遺物(2)

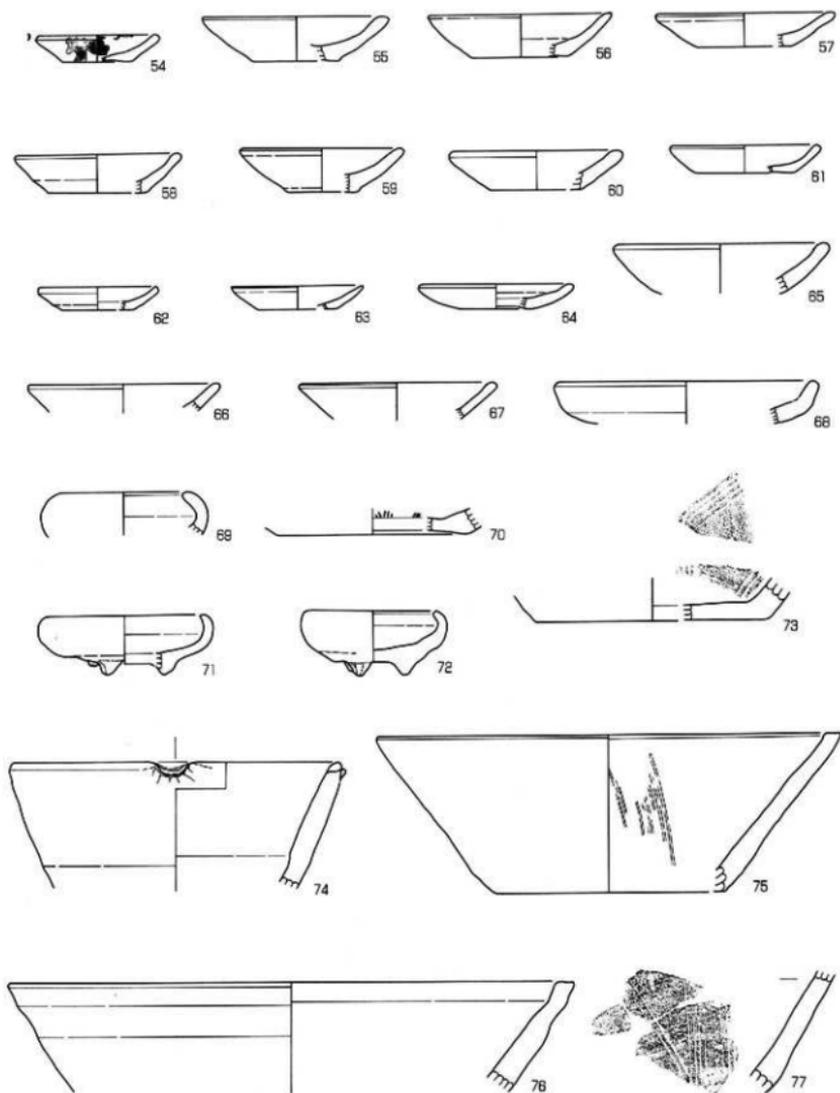


图7 第57次調査出土遺物(3)



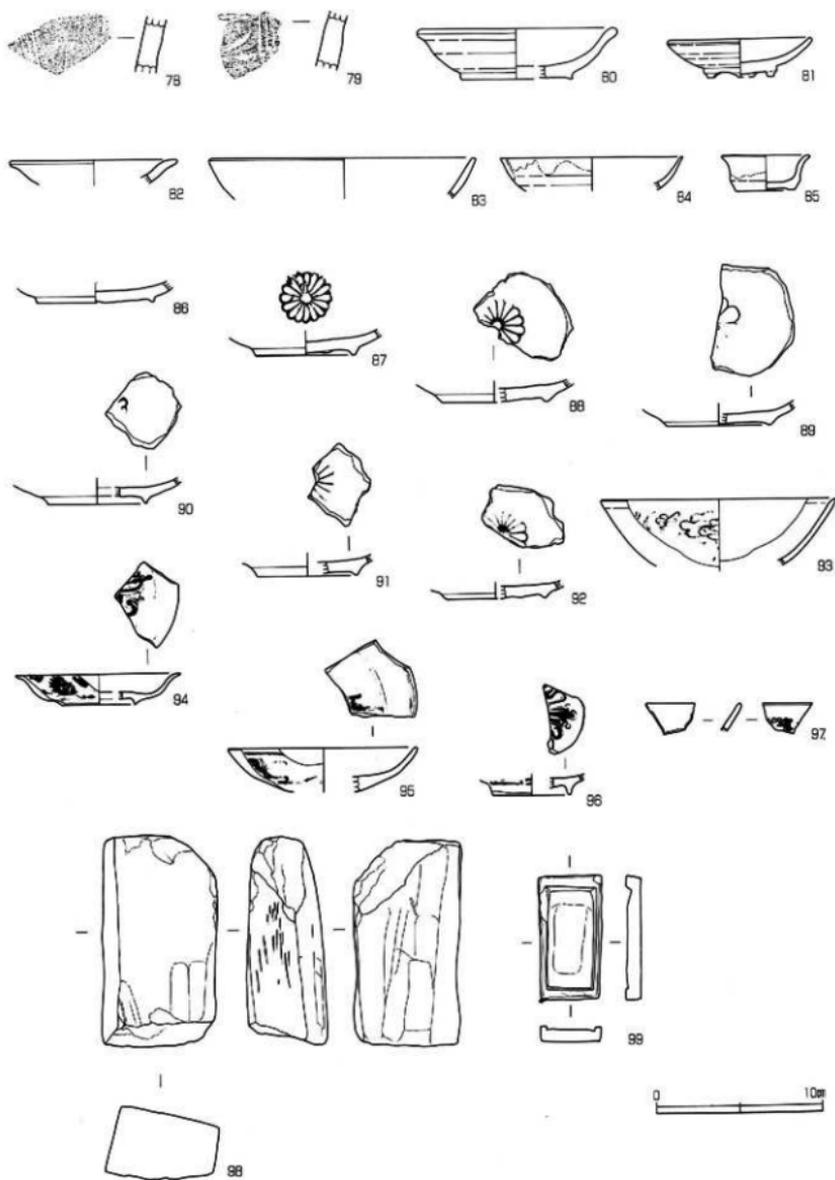
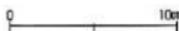
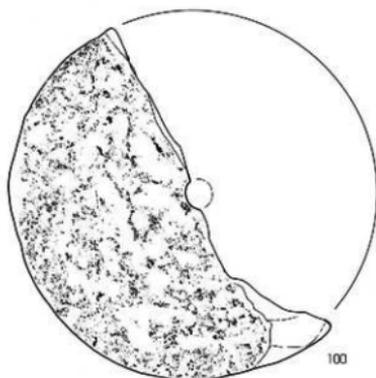
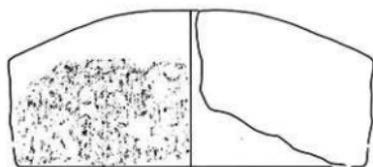
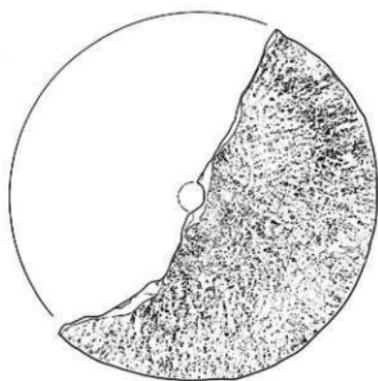


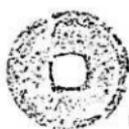
图8 第57次調査出土遺物(4)



101



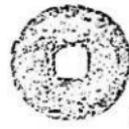
102



103



104



105



106



107



図9 第57次調査出土遺物 (5)

表1 第57次調査出土遺物観察表

() 測定値、(>) 残存値、単位(cm)

番号	出土地点	種類	器種	法量 口・底・高・底径	部位	観察など	胎	十	焼成	色	調	備	考
1	1号土坑	土	かわらけ	14.6・2.75・6.7	口縁部 ～底部	ロクロ成形 回転糸切り	赤色粒子	良			浅黄褐色 10YR 8/4		
2	一括	土	かわらけ	(13.6)・(2.6)・(7.2)	口縁部 ～底部	ロクロ成形 回転糸切り	長石・金雲母	良			にぶい橙 7.5YR 6/4		
3	一括	土	かわらけ	12.2・2.6・6.2	口縁部 ～底部	ロクロ成形 回転糸切り	長石・石英・金雲母	良			橙 7.5YR 6/6		
4	一括	土	かわらけ	(12.2)・2.3・(4.0)	口縁部 ～底部	ロクロ成形 回転糸切り	長石・石英・金雲母・赤色粒子	良			橙 7.5YR 6/6		
5	一括	土	かわらけ	12.1・2.5・5.9	口縁部 ～底部	ロクロ成形 回転糸切り	長石・石英・金雲母	良			橙 7.5YR 6/6		
6	一括	土	かわらけ	12.3・2.6・5.2	口縁部 ～底部	ロクロ成形 回転糸切り	長石・石英・金雲母	良			橙 7.5YR 6/6		
7	一括	土	かわらけ	10.8・2.4・5.8	口縁部 ～底部	ロクロ成形 回転糸切り	金雲母・赤色粒子	良			内)橙 5YR 6/6 外)にぶい橙 7.5YR 6/4		
8	一括	土	かわらけ	12.2・2.7・5.4	口縁部 ～底部	ロクロ成形 回転糸切り	長石・石英・金雲母・赤色粒子	良			橙 7.5YR 7/6		
9	一括	土	かわらけ	(11.4)・(3.5)・(6.0)	口縁部 ～底部	ロクロ成形 回転糸切り	長石・石英・金雲母・赤色粒子	良			橙 7.5YR 6/6		底部摩耗
10	一括	土	かわらけ	(7.6)・1.9・(4.0)	口縁部 ～底部	ロクロ成形 回転糸切り	長石・石英・金雲母・赤色粒子	良			にぶい橙 5YR 7/4		
11	2号土坑	土	かわらけ	8.0・2.1・4.1	口縁部 ～底部	ロクロ成形 回転糸切り	長石・石英・金雲母	良			橙 7.5YR 6/6		
12	一括	土	かわらけ	7.8・1.8・4.2	口縁部 ～底部	ロクロ成形 回転糸切り	長石・石英・金雲母・赤色粒子	良			橙 7.5YR 6/6		外面に炭化物
13	一括	土	かわらけ	8.0・1.75・4.0	口縁部 ～底部	ロクロ成形 回転糸切り	石英・金雲母・赤色粒子	良			橙 5YR 6/6		
14	一括	土	かわらけ	8.4・1.8・4.1	口縁部 ～底部	ロクロ成形 回転糸切り	長石・石英・金雲母・赤色粒子	良			橙 5YR 6/6		
15	一括	土	かわらけ	7.6・1.9・4.0	口縁部 ～底部	ロクロ成形 回転糸切り	長石・金雲母	良			橙 7.5YR 7/6		
16	一括	土	かわらけ	(6.8)・1.8・(3.5)	口縁部 ～底部	ロクロ成形 回転糸切り	長石・石英・金雲母・赤色粒子	良			にぶい赤褐 5YR 5/4		
17	一括	土	かわらけ	7.2・1.9・4.0	口縁部 ～底部	ロクロ成形 回転糸切り	長石・石英・金雲母・赤色粒子	良			橙 7.5YR 6/6		
18	一括	土	かわらけ	7.2・1.8・3.8	口縁部 ～底部	ロクロ成形 回転糸切り	長石・石英・金雲母・赤色粒子	良			にぶい橙 7.5YR 7/6		
19	一括	土	かわらけ	8.3・1.9・4.5	口縁部 ～底部	ロクロ成形 回転糸切り	長石・石英・金雲母・赤色粒子	良			橙 7.5YR 7/6		
20	一括	土	かわらけ	8.2・2.0・3.9	口縁部 ～底部	ロクロ成形 回転糸切り	長石・石英・金雲母・赤色粒子	良			にぶい橙 7.5YR 7/4		
21	一括	土	かわらけ	7.5・1.8・4.3	口縁部 ～底部	ロクロ成形 回転糸切り	長石・石英・金雲母	良			にぶい黄緑 10YR 7/4		口唇部に炭化物
22	一括	土	かわらけ	7.1・1.9・4.2	口縁部 ～底部	ロクロ成形 回転糸切り	長石・石英・金雲母	良			にぶい黄緑 10YR 7/4		口唇部に炭化物 外面にスス付着
23	一括	土	かわらけ	6.6・1.8・3.8	口縁部 ～底部	ロクロ成形 回転糸切り	長石・金雲母	良			橙 7.5YR 7/6		
24	一括	土	かわらけ	(8.8)・(2.15)・(4.8)	口縁部 ～底部	ロクロ成形 回転糸切り	長石・石英・金雲母・赤色粒子	良			内)明赤褐 2.5YR 5/6 外)橙 7.5YR 6/6		
25	ビット1	土	かわらけ	(8.0)・(1.95)・(4.0)	口縁部 ～底部	ロクロ成形 回転糸切り	長石・石英・金雲母	良			橙 5YR 6/6		底部コゲ
26	ビット39	土	かわらけ	(6.8)・(1.9)・4.4	口縁部 ～底部	ロクロ成形 回転糸切り	長石・石英・金雲母	良			橙 7.5YR 6/6		底部コゲ
27	一括	土	かわらけ	(6.8)・(1.7)・(3.8)	口縁部 ～底部	ロクロ成形 回転糸切り	長石・石英・金雲母	良			明赤褐 5YR 5/6		
28	一括	土	かわらけ	(6.8)・(1.5)・(4.0)	口縁部 ～底部	ロクロ成形 回転糸切り	金雲母・赤色粒子	良			内)橙 7.5YR 6/6 外)明黄褐 10YR 7/6		
29	一括	土	かわらけ	(8.7)・(1.85)・(5.0)	口縁部 ～底部	ロクロ成形 回転糸切り	長石・石英・金雲母	良			橙 7.5YR 6/6		底部穿孔
30	一括	土	かわらけ	(16.0)・(2.6)・(8.0)	口縁部 ～底部	ロクロ成形 回転糸切り	雲母・金雲母	良			橙 5YR 6/6		
31	一括	土	かわらけ	(12.6)・(2.9)・(5.8)	口縁部 ～底部	ロクロ成形 回転糸切り	雲母・金雲母・赤色粒子	良			橙 5YR 6/6		
32	一括	土	かわらけ	(5.8)・(1.5)・(2.7)	口縁部 ～底部	ロクロ成形 回転糸切り	長石・石英・金雲母	良			橙 7.5YR 6/6		
33	一括	土	かわらけ	(12.0)・(3.0)・(6.0)	口縁部 ～底部	ロクロ成形 回転糸切り	長石・石英・金雲母・赤色粒子	良			にぶい橙 7.5YR 6/4		
34	一括	土	かわらけ	(11.6)・(3.0)・(4.6)	口縁部 ～底部	ロクロ成形 回転糸切り	長石・石英・金雲母・赤色粒子	良			橙 7.5YR 7/6		
35	一括	土	かわらけ	(10.0)・(2.7)・(6.0)	口縁部 ～底部	ロクロ成形 回転糸切り	長石・石英・金雲母	良			橙 7.5YR 6/6		

表2 第57次調査出土遺物観察表

() 個数値、< > 残存値、単位(cm)

番号	出土 地点	種別	形	部	種	法 量 目 径・高・底径	部位	調整など	胎	土 地 色	調 査	備 考
36	一括	土	器	かわらけ	口縁部 -底面	(6.0)・(1.35)・(3.6)	口ワロ成形 回転糸切り		長石・石英・金雲母	良	橙 5YR 6/6	
37	ビット47	土	器	かわらけ	口縁部 -底面	(11.4)・(1.9)・(8.0)	口ワロ成形 回転糸切り		長石・石英・金雲母	良	内) 赤褐色 10YR 6/4	
38	一括	土	器	かわらけ	口縁部 -底面	(11.2)・(2.2)・(7.2)	口ワロ成形 回転糸切り		長石・石英・金雲母	良	内) 赤褐色 7.5YR 6/3	
39	一括	土	器	かわらけ	口縁部 -底面	(11.0)・(1.9)・(5.6)	口ワロ成形 回転糸切り		石英・金雲母・赤色粒子	良	明赤褐色 5YR 5/6	
40	一括	土	器	かわらけ	口縁部 -底面	(6.8)・(1.6)・(4.0)	口ワロ成形 回転糸切り		金雲母・赤色粒子	良	橙 7.5YR 6/6	
41	一括	土	器	かわらけ	口縁部 -底面	(10.6)・(2.7)・(6.0)	口ワロ成形 回転糸切り		長石・石英・金雲母	良	内) 赤褐色 7.5YR 6/4	
42	一括	土	器	かわらけ	口縁部 -底面	(9.6)・(2.4)・(5.0)	口ワロ成形 回転糸切り		長石・石英・金雲母・赤色粒子	良	内) 赤褐色 7.5YR 6/4	
43	一括	土	器	かわらけ	口縁部 -底面	(10.6)・(2.0)・(6.0)	口ワロ成形 回転糸切り		長石・石英・金雲母	良	橙 5YR 6/6	
44	一括	土	器	かわらけ	口縁部 -底面	(10.2)・(2.2)・(5.4)	口ワロ成形 回転糸切り		石英・金雲母・赤色粒子	良	橙 7.5YR 6/6	
45	2号溝	土	器	かわらけ	口縁部 -底面	(9.8)・(2.3)・(6.2)	口ワロ成形 回転糸切り		長石・石英・金雲母・赤色粒子	良	橙 5YR 6/6	
46	一括	土	器	かわらけ	口縁部 -底面	(7.8)・(1.8)・(4.6)	口ワロ成形 回転糸切り		長石・石英・金雲母	良	橙 5YR 7/6	底部・見込み、 口縁部にスズ付着
47	一括	土	器	かわらけ	口縁部 -底面	(8.2)・(1.9)・(5.0)	口ワロ成形 回転糸切り		長石・雲母・金雲母	良	黒 10YR 2/1 内) 赤褐色 10YR 7/4	
48	一括	土	器	かわらけ	口縁部 -底面	(8.0)・(1.8)・(4.9)	口ワロ成形 回転糸切り		石英・金雲母・赤色粒子	良	内) 赤褐色 7.5YR 5/4	
49	一括	土	器	かわらけ	口縁部 -底面	(8.8)・(1.3)・(6.0)	口ワロ成形 回転糸切り		長石・石英・赤色粒子	良	内) 赤褐色 7.5YR 6/4	
50	一括	土	器	かわらけ	口縁部 -底面	(7.6)・(1.7)・(4.6)	口ワロ成形 回転糸切り		長石・石英・金雲母・赤色粒子	良	橙 7.5YR 6/6	
51	一括	土	器	かわらけ	口縁部 -底面	(7.1)・(1.55)・(4.0)	口ワロ成形 回転糸切り		石英・金雲母・赤色粒子	良	橙 5YR 6/6	
52	ビット54	土	器	かわらけ	口縁部 -底面	(7.9)・(1.7)・(5.0)	口ワロ成形 回転糸切り		長石・金雲母	良	橙 5YR 6/6	
53	一括	土	器	かわらけ	口縁部 -底面	(7.4)・(2.2)・(4.0)	口ワロ成形 回転糸切り		長石・石英・金雲母・赤色粒子	良	橙 7.5YR 6/5	
54	一括	土	器	かわらけ	口縁部 -底面	(7.0)・(1.6)・(4.2)	口ワロ成形		長石・金雲母	良	明赤褐色 2.5YR 5/6	外面コゲ
55	一括	土	器	かわらけ	口縁部 -底面	(10.9)・(2.7)・(5.2)	口ワロ成形		長石・石英・金雲母	良	橙 7.5YR 6/6	
56	一括	土	器	かわらけ	口縁部 -底面	(10.8)・(2.6)・(5.6)	口ワロ成形		長石・金雲母・赤色粒子	良	橙 7.5YR 7/6	
57	一括	土	器	かわらけ	口縁部 -底面	(10.4)・(2.05)・(5.8)	口ワロ成形		長石・金雲母	良	明赤褐色 5YR 5/6	
58	一括	土	器	かわらけ	口縁部 -底面	(9.7)・(2.3)・(6.0)	口ワロ成形		長石・石英・金雲母	良	内) 赤褐色 10YR 4/3 外) 褐色 10YR 4/1	
59	一括	土	器	かわらけ	口縁部 -底面	(9.6)・(2.7)・(4.4)	口ワロ成形		石英・雲母・金雲母	良	明赤褐色 5YR 5/6	
60	一括	土	器	かわらけ	口縁部 -底面	(9.8)・(2.4)・(5.4)	口ワロ成形		長石・石英・雲母・金雲母	良	内) 赤褐色 7.5YR 5/4	
61	一括	土	器	かわらけ	口縁部 -底面	(8.6)・(1.7)・(6.0)	口ワロ成形		長石・石英・赤色粒子	良	橙 5YR 6/6	
62	一括	土	器	かわらけ	口縁部 -底面	(7.0)・(1.4)・(4.2)	口ワロ成形		石英・金雲母・赤色粒子	良	内) 橙 7.5YR 6/6 外) 赤褐色 7.5YR 7/4	
63	ビット51	土	器	かわらけ	口縁部 -底面	(8.0)・(1.4)・(4.8)	口ワロ成形		金雲母	良	内) 赤褐色 10YR 6/4	
64	一括	土	器	かわらけ	口縁部 -底面	(8.8)・(1.5)・(4.0)	口ワロ成形		石英・金雲母・赤色粒子	良	橙 7.5YR 5/4	
65	一括	土	器	かわらけ	口縁部 -底面	(12.2)・(3.05)・-	口ワロ成形		長石・石英・金雲母	良	橙 7.5YR 6/6	
66	ビット51	土	器	かわらけ	口縁部 -底面	(11.4)・(1.7)・-	口ワロ成形		長石・石英・金雲母	良	橙 5YR 6/8	
67	一括	土	器	かわらけ	口縁部 -底面	(11.4)・(2.2)・-	口ワロ成形		長石・石英・金雲母	良	明赤褐色 5YR 5/6	
68	一括	土	器	かわらけ	口縁部 -底面	(15.4)・(2.6)・-	口ワロ成形		長石・石英・金雲母・赤色粒子	良	橙 5YR 6/6	
69	一括	土	器	香炉	口縁部 -底面	(7.0)・(2.7)・-	口ワロ成形		長石・石英・金雲母・赤色粒子	良	橙 5YR 6/6	
70	一括	土	器	播鉢	底部	-・(1.5)・(11.3)	ナ字成形		長石・石英・金雲母・赤色粒子	良	橙 2.5YR 6/6	
71	一括	土	器	香炉	口縁部 -底面	(8.0)・(4.0)・(4.8)	口ワロ成形 回転糸切り		長石・石英・金雲母・赤色粒子	良	橙 5YR 6/6	

表3 第57次調査出土遺物観察表

()復元値、< > 残存値、単位(cm)

番号	出土 地点	種別	器種	法 口径・高さ・底径	部位	調整など	胎	土	焼成 色	調	備	考
72	一括	土器	香炉	(10.0)・(3.5)・(3.5)	口縁部 ~ 底部	口縁成形	長石・石英・金雲母・赤色粒子	良	橙	5YR 6/6		
73	ビット5	土器	播鉢	-・(2.5)・(14.0)	底部	不明	長石・石英・雲母・金雲母	良	橙	5YR 6/6 内)橙 5YR 6/6 灰黄褐 10YR 6/2 外)黄黄褐 10YR 6/6		
74	一括	土器	片口鉢	(19.4)・(7.7)・-	口縁部 ~ 底部	ナデ成形	長石・石英・金雲母・赤色粒子	良	橙	5YR 6/6		
75	一括	土器	播鉢	(26.8)・(9.6)・(14.2)	口縁部 ~ 底部	ナデ成形	長石・石英・金雲母	良	橙	5YR 6/6		
76	一括	土器	鉢	(32.8)・(6.7)・-	口縁部 ~ 底部	ナデ成形	長石・石英・金雲母・赤色粒子	良	明赤褐色	2.5YR 5/6		
77	一括	土器	播鉢	-・-・-・-	底部	ナデ成形	長石・石英・金雲母・赤色粒子	良	橙	5YR 6/6		
78	一括	土器	播鉢	-・-・-・-	底部	ナデ成形	長石・石英・金雲母	良	橙	2.5YR 6/6		
79	一括	土器	播鉢	-・-・-・-	底部	ナデ成形	長石・石英・金雲母	良	に3い橙	5YR 6/4		
80	一括	陶器	壺反皿	(11.5)・(3.1)・(6.8)	口縁部 ~ 底部		密/灰釉	良好	-	-	大塚1段階	
81	一括	白磁	皿	(8.6)・2.3・(4.0)	口縁部 ~ 底部		緻密	良好	-	-	底部挟り4単位	
82	一括	陶器	壺反皿	(10.0)・(1.4)・-	口縁部 ~ 底部		密/灰釉	良好	-	-	大塚1段階	
83	一括	陶器	平碗	(15.8)・(2.45)・-	口縁部 ~ 底部		密/灰釉	良好	-	-	大塚1段階	
84	ビット40	陶器	丸皿	(11.0)・(2.0)・-	口縁部 ~ 底部		密/灰釉	良好	-	-	大塚2段階?	
85	一括	陶器	小杯	5.4・2.2・3.6	口縁部 ~ 底部		密/灰釉	良好	-	-	大塚2か3段階	
86	一括	陶器	丸皿?	-・(1.2)・(7.0)	底部		密/灰釉	良好	-	-	大塚2段階	
87	一括	陶器	壺反皿か 丸皿	-・(1.5)・(6.0)	底部		密/灰釉	良好	-	-	大塚1か2段階 見込みに着印	
88	一括	陶器	壺反皿か 丸皿	-・(1.3)・(6.4)	底部		密/灰釉	良好	-	-	大塚1か2段階 見込みに着印	
89	一括	陶器	丸皿?	-・(1.5)・(3.2)	底部		密/灰釉	良好	-	-	大塚2段階 見込みに着印	
90	一括	陶器	壺反皿か 丸皿	-・(1.6)・(6.0)	底部		密/灰釉	良好	-	-	大塚1か2段階 見込みに着印	
91	一括	陶器	壺反皿か 丸皿	-・(1.3)・(6.0)	底部		密/灰釉	良好	-	-	大塚1か2段階 見込みに着印	
92	一括	陶器	壺反皿か 丸皿	-・(1.0)・(6.0)	底部		密/灰釉	良好	-	-	大塚1か2段階 見込みに着印	
93	一括	磁器	碗	(14.0)・(4.1)・-	口縁部 ~ 底部		緻密	良好	-	-		
94	一括	磁器	皿	(11.0)・(2.65)・-	口縁部 ~ 底部		緻密	良好	-	-		
95	一括	磁器	碗	(10.0)・(1.8)・(4.4)	口縁部 ~ 底部		緻密	良好	-	-		
96	一括	磁器	皿	-・(1.2)・(4.6)	底部		緻密	良好	-	-		
97	一括	磁器	不明	-・-・-・-	口縁部		緻密	良好	-	-		
98	一括	石製品	砥石	長さ 12.7	幅 6.9	厚さ 3.95	-	-	-	-		
99	一括	石製品	硯	長さ 7.5	幅 3.6	厚さ 0.9	-	-	-	-		
100	2号溝	石製品	石臼	最大径・最大幅 14.7	高さ 29.2	12.7	下白					
101	一括	銭貨	寛永通宝	直径 2.52	穿径 0.6	重量 3.3g						
102	柱穴10	銭貨	寛永通宝	直径 2.49	穿径 0.52	重量 3.4g						
103	一括	銭貨	景徳元宝	直径 2.5	穿径 0.65	重量 1.9g						
104	一括	銭貨	元豊通宝	直径 2.42	穿径 0.64	重量 2.1g						
105	一括	銭貨	宣和通宝	直径 2.44	穿径 0.62	重量 2.9g						
106	一括	銭貨	治平元宝	直径 2.41	穿径 0.65	重量 2.2g						
107	一括	銭貨	開寧通宝	直径 2.47	穿径 0.68	重量 1.7g						



写真1 調査区全景



写真2 敷石検出状況



写真3 2号溝検出状況

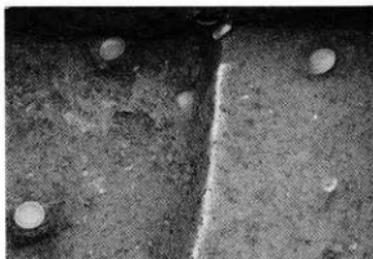


写真4 2号溝遺物出土状況



写真5 柱穴列検出状況



写真6 調査風景

武田氏館跡第58次調査

所在地 屋形三丁目 2520-15
調査原因 越水稲宅増築工事
調査面積 10㎡
調査期間 平成10年11月2日～10日
調査担当者 伊藤正彦



調査の概要

武田氏館跡の南側約150mに位置し、標高339mを測る。東側には城下へ南下する広小路（現在の県道甲府・山梨線）が走る。南側50m地点で行われた第7次調査では、基底部からの高さ1.5mを測る土塁が確認され、土塁下部からは人骨が出土している。また、西側50m地点での第11次調査の際には幅15mを測り、武田氏館跡と主軸を同じくする溝が確認されている。

建物増築部分を幅1.2m、長さ4.8m程度重機で掘り下げ、遺構の確認を行った。

遺構・遺物

部分的に巨大な礫が見られたが、遺構・遺物ともに検出されなかった。

まとめ

遺構は検出されなかったが、周辺で行われた過去の調査成果から本地点が屋敷の空閑地であったことも考えられ、今後の周辺調査に期待したい。



図1 第58次調査区位置図



写真1 土層堆積状況

武田氏館跡第60次調査

所在地 古府中町3532・3536
調査原因 谷川義孝宅駐車場
調査面積 127㎡
調査期間 平成10年2月18日～24日
調査担当者 平塚洋一



調査の概要

東側に流れる藤川、西側に流れる相川によって形成される相川扇状地の開析部に位置し、標高365m前後を測る。古絵図によると周辺街路は武田氏時代からの名残で、武田氏家臣屋敷跡の伝承地でもある。本地点両側には大正6年築造の竜ヶ池が位置し、日当たりの良い緩傾斜地である。

調査は南北41m・東西11.3mと12.8mのトレンチを設定し、人力による掘り下げを行った。

遺構

- 土坑 3基、ビット 3基が確認された。
- 土坑 1号土坑は直径80cm、深さ28cmを測る。直径10～50cmの礫が充填し、ビット1と重複する。内部から、かわらけが出土している(図3-9)。2号土坑は直径127cm、深さ18cmを測り、平面形態は不正円形を呈する。かわらけが出土している(図3-14)。3号土坑は直径87cm、深さ58cmを測り、平面形態は円形を呈する。直径20cm程度の石を円形に配している。出土遺物はない。
- ビット ビット1は直径48cm、深さ15cmを測る。1号土坑と重複し、南側が調査区外に続く。ビット2は調査区中央の焼土集中部分で確認された。確認できた部分で長径65cm、深さ19cmを測る。ビット3は長径30cm、深さ22cmを測り、不正楕円形を呈する。ビットからの出土遺物はなかった。

遺物

かわらけ(1～18・20)を主体とし、陶器皿(19)、播鉢(21)、須恵器片(22)、鉄製品(22・23)が出土している。

出土したかわらけの全てがロクロ成形で、底部には回転糸切り痕を残す。11のかわらけは、内面に溶融物が付着している。

まとめ

確認された遺構は土坑とビットのみであったが、集石・焼土が所々に見られた。A・Bトレンチの礫集中か所に遺構が確認されていないのは庭などの空閑地であったことも推定されるが、本地点に何らかの施設が存在した可能性も考えられる。

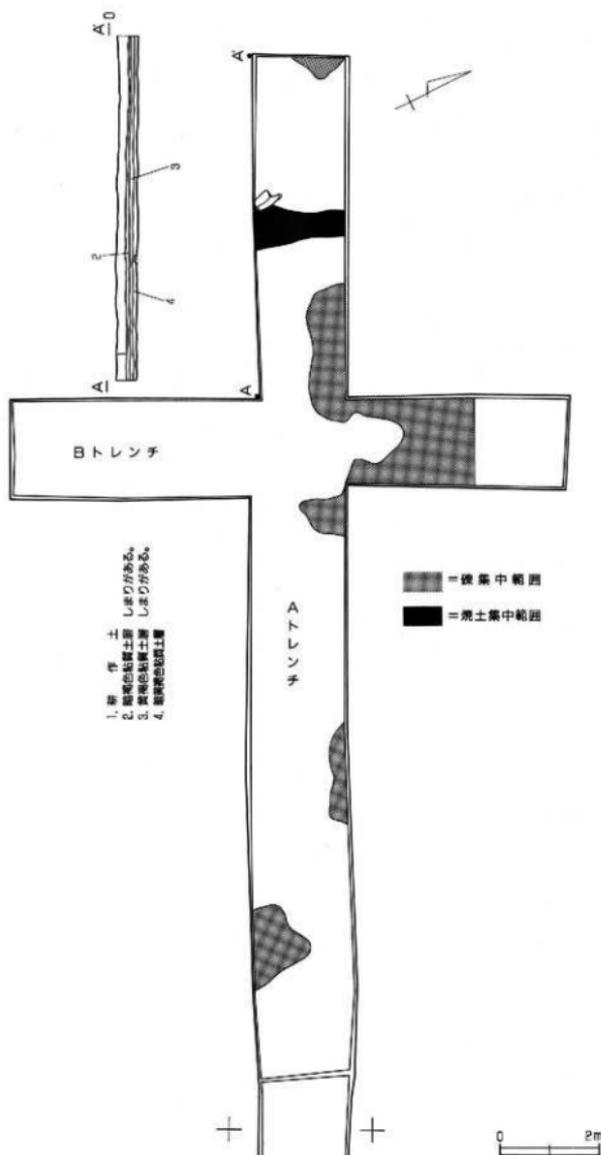


図1 第60次調査全体図・セクション(1)

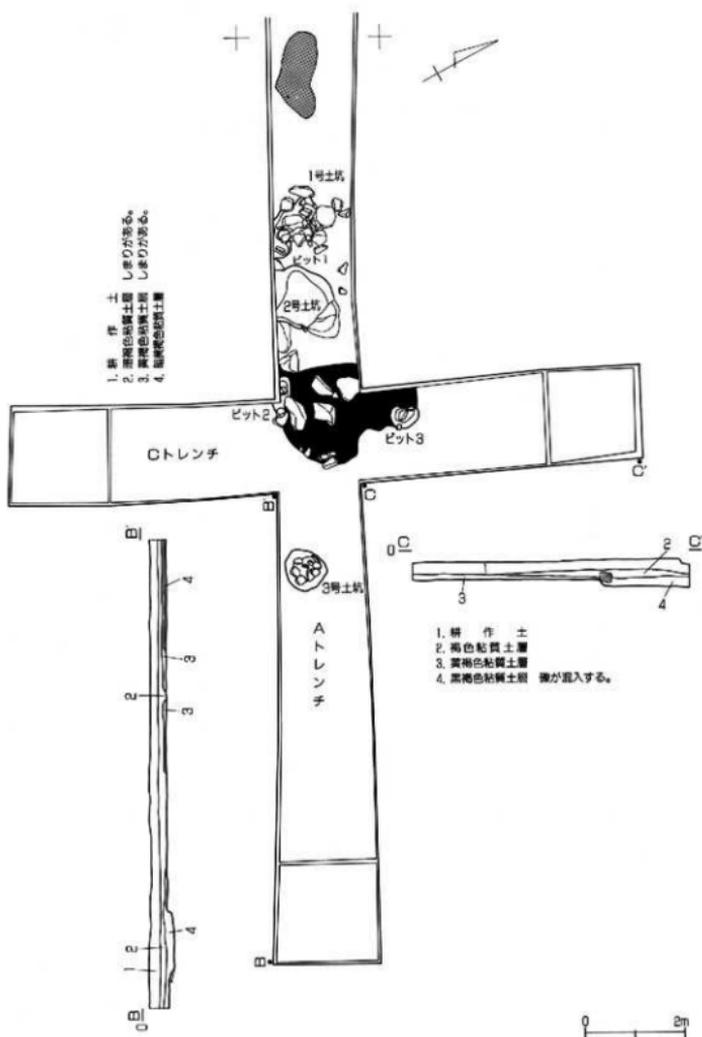


図2 第60次調査全体図・セクション(2)

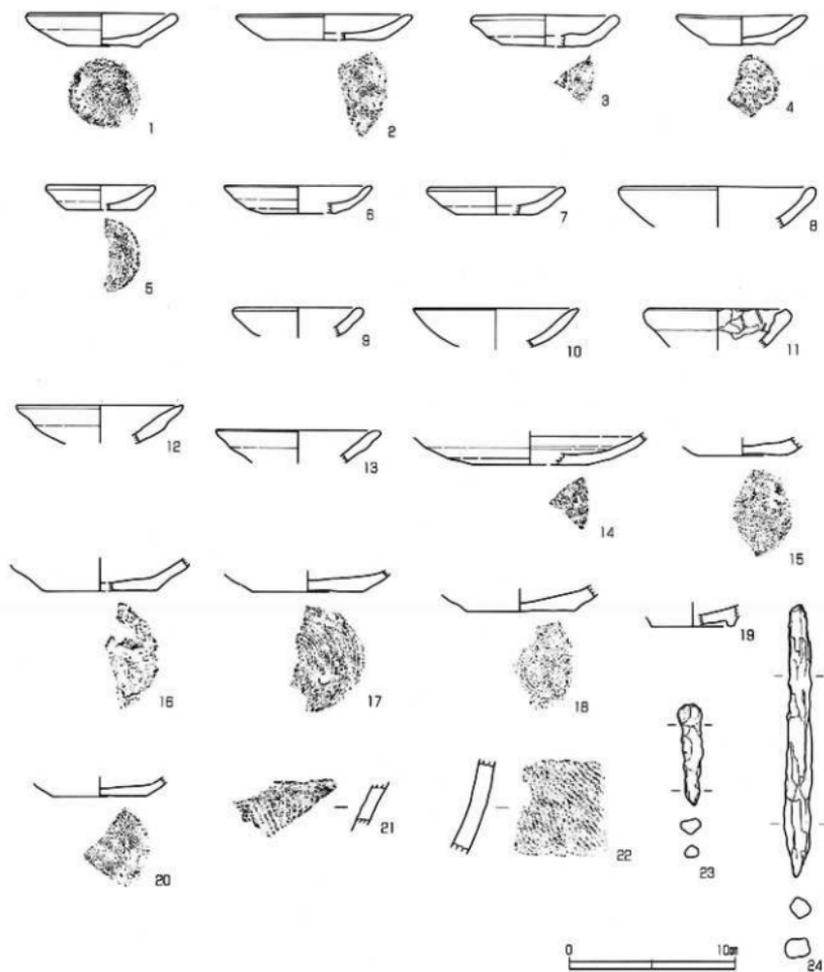


图3 第60次調査出土遺物

表1 第60次調査出土遺物観察表

() 復元値、< > 残存値、単位(cm)

番号	出土地点	種別	器種	法量 口径・高さ・底径	部位	調整など	結	土	焼成色	測	備	考	
1	一括	土	器	かわらけ	8.8・2.0・4.4	口縁部 -底面	ロクロ成形 回転承切り	長石・石英・金雲母	良	橙	5YR 6/6		
2	一括	土	器	かわらけ	(10.4)・(1.55)・(7.0)	口縁部 -底面	ロクロ成形	長石・石英・金雲母	良	橙	7.5YR 6/6		底面摩耗
3	一括	土	器	かわらけ	(8.5)・(1.9)・(5.2)	口縁部 -底面	ロクロ成形	長石・石英・金雲母	良		内) 橙 5YR 6/6 外) 橙 7.5YR 6/6		
4	一括	土	器	かわらけ	(7.6)・(1.75)・(4.0)	口縁部 -底面	ロクロ成形	長石・金雲母	良		内) 橙 5YR 6/6 外) 明赤褐 5YR 5/6		
5	一括	土	器	かわらけ	(6.3)・(1.5)・(4.2)	口縁部 -底面	ロクロ成形	長石・石英・金雲母	良		にぶい質褐 10YR 6/4 灰黄褐 10YR 5/2		底面摩耗
6	一括	土	器	かわらけ	(8.7)・(1.7)・(4.4)	口縁部 -底面	ロクロ成形	長石・石英・金雲母	良	橙	5YR 6/6		
7	一括	土	器	かわらけ	(8.0)・(1.65)・(4.8)	口縁部 -底面	ロクロ成形	長石・石英・金雲母・赤色粒子	良	橙	5YR 6/6		
8	一括	土	器	かわらけ	(11.4)・<2.5>・-	口縁部 -底面	ロクロ成形	長石・金雲母・赤色粒子	良		洗黄褐 10YR 8/4		
9	1号土坑	土	器	かわらけ	(7.4)・<1.8>・-	口縁部 -底面	ロクロ成形	長石・石英・金雲母・赤色粒子	良	橙	5YR 6/6		
10	一括	土	器	かわらけ	(9.8)・<2.3>・-	口縁部 -底面	ロクロ成形	石英・金雲母	良		黒 10YR 2/1 にぶい質褐 10YR 5/3		
11	一括	土	器	かわらけ	(8.3)・<2.4>・-	口縁部 -底面	ロクロ成形	石英・雲母	良		にぶい橙 7.5YR 7/4 灰褐 7.5YR 5/2		
12	一括	土	器	かわらけ	(10.0)・<2.3>・-	口縁部 -底面	ロクロ成形	長石・石英・雲母	良	橙	7.5YR 7/6		
13	一括	土	器	かわらけ	(9.5)・<2.0>・-	口縁部 -底面	ロクロ成形	長石・石英・金雲母	良	橙	5YR 6/6		
14	2号土坑	土	器	かわらけ	-・<2.0>・(7.0)	底面	ロクロ成形	密	良		洗黄褐 7.5YR 8/3		
15	一括	土	器	かわらけ	-・<1.1>・(5.4)	底面	ロクロ成形	長石・石英・金雲母	良		内) 橙 5YR 6/6 灰黄褐 10YR 5/2 外) 黒褐 7.5YR 3/1		
16	一括	土	器	かわらけ	-・<2.0>・(6.8)	底面	ロクロ成形	長石	良		にぶい橙 7.5YR 7/4		
17	一括	土	器	かわらけ	-・<1.3>・(6.6)	底面	ロクロ成形 回転承切り	長石・金雲母	良		内・外) 黒 10YR 2/1 断面) にぶい橙 7.5YR 6/4		
18	一括	土	器	かわらけ	-・<1.6>・(6.6)	底面	ロクロ成形 回転承切り	長石・金雲母	良		にぶい橙 7.5YR 6/4		
19	一括	陶	器	不明	-・<1.3>・(5.0)	底面	-	緻密	良	-			
20	一括	土	器	かわらけ	-・<1.15>・(5.6)	底面	ロクロ成形	長石・金雲母	良		黒 10YR 1.7/1		
21	一括	土	器	楕鉢	-・-・-	体部	ナデ成形	長石・金雲母・赤色粒子	良	橙	5YR 6/6		
22	一括	順	恵器	不明	-・-・-	体部	ロクロ成形	長石	良	灰白	N8/		
23	一括	鉄	製品	釘?	長さ 6.09, 最大径 1.46, 厚さ 0.9	-	-	-	-	-	-		
24	一括	鉄	製品	釘?	長さ 16.45, 最大径 1.55, 厚さ 1.25	-	-	-	-	-	-		

武田氏館跡第61次調査

所在地 大手三丁目 3708-3
調査原因 数野信宅建築工事
調査面積 122㎡
調査期間 平成11年1月19日～2月5日
調査担当者 志村憲一



調査の概要

東側に藤川、西側に相川が流れる相川扇状地の扇状部に位置する緩傾斜地で、標高338m前後を測る。北東側に武田氏館跡が占地し、南北基幹街路である広小路・鍛冶小路に挟まれた場所にあたる。現在、周辺には住宅が密集しているが、古絵図等によると家臣屋敷の存在が推定され、これまでも数回に渡る調査が行われている地域である。

調査は建物敷地全面を対象とし、重機で表土を掘削した後、人力による精査を行った。

遺構

溝 1条、土坑 6基、ビット70基が検出された。

溝 調査区東隅に確認され、N-61°-Eに軸をもつ。最大幅43cm、深さ9cmを測る。溝内から、かわらけが出土した(図2-1・5・7)。

土坑 1号土坑は直径約60cm、深さ47cmを測り、平面形態は円形を呈する。直径20～40cm程度の石を充填する。内部から、かわらけの破片・壁土が出土した。2号土坑は直径約140cm、深さ28cmを測り、平面形態は円形を呈する。直径10～20cm程度の石がまばらに入り、ビット20と重複する。かわらけ・土器底部が出土した。3号土坑は確認できた部分で長径110cm、深さ18cmを測り、平面形態は円形を呈すると思われる。4号土坑は確認できた部分で長径88cm、深さ20cmを測り、平面形態は円形を呈すると思われる。3号土坑と並行する。5号土坑は長径74cm、深さ10cmを測り、平面形態は楕円形を呈する。直径10～20cm程度の石を充填し、ビット38と重複する。内部から、かわらけ・土器底部が出土した(図2-4・21)。6号土坑は長径100cm、深さ56cmを測り、不正楕円形を呈する。内部から、かわらけの破片が出土した。

ビット 確認されたビットは直径20～70cm、深さ10～60cmを測る。調査区東側に集中するが、規則性をもつ列構成は見られない。内部から、かわらけの破片が出土したものもあるが小片のため図化には至らなかった。

遺物

かわらけ(1～18)を主体とし、土器(21)、陶器(19)・磁器(20・22・23)・石製品(24)・青銅製品(25)・銭貨(26・27)が出土した。

かわらけはクロコ成形で、底部に回転糸切り痕を残す。8のかわらけは手づくねと思われる。19は丸皿の底部と思われる、大窯2段階に比定される。20は白磁碗、22は青磁大皿、

23は青磁の破片で器種は不明である。24は石皿である。銭貨は26が洪武通宝、27は景德元宝である。

まとめ

本地点は、古絵図によると武田氏の家臣屋敷跡が示唆される場所である。絵図によりその記載は少々異なるが、中沢泉氏所蔵「古府中村絵図」によれば真田弾正の屋敷跡と推定される。

調査の結果、確認された溝・土坑・ピットは出土遺物から16世紀代に位置づけられる。70基に及ぶピットには規則性が見られず、数回に渡る建物の建て替えが行われたと推定される。青磁・白磁片が出土しているが、隣接する第15次調査地点からも龍泉窯系青磁の盤が出土しており、武田氏家臣屋敷が存在した可能性が示唆される。

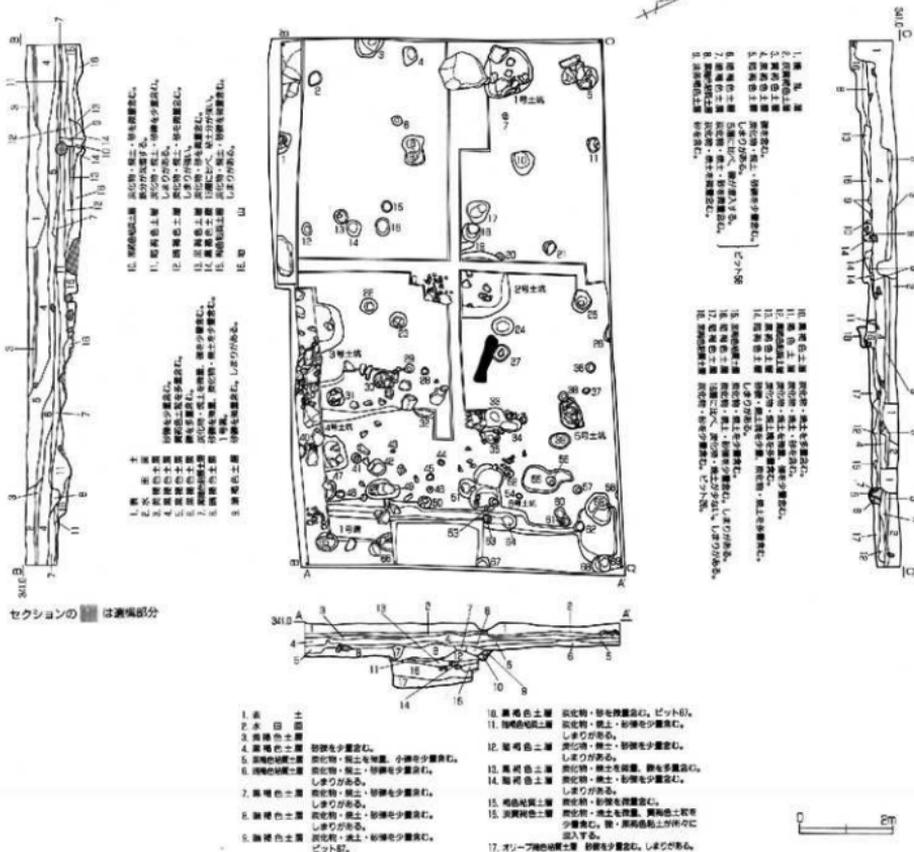


図1 第61次調査全体図・セクション

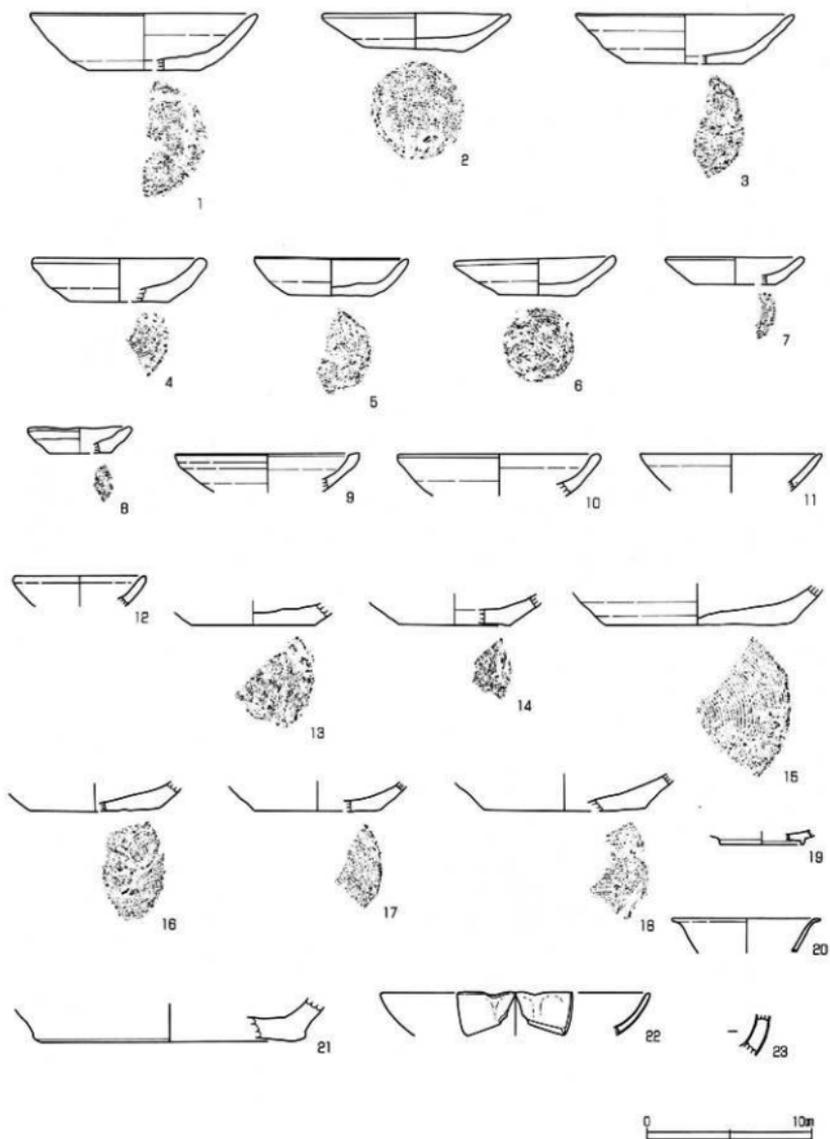


図2 第61次調査出土遺物(1)

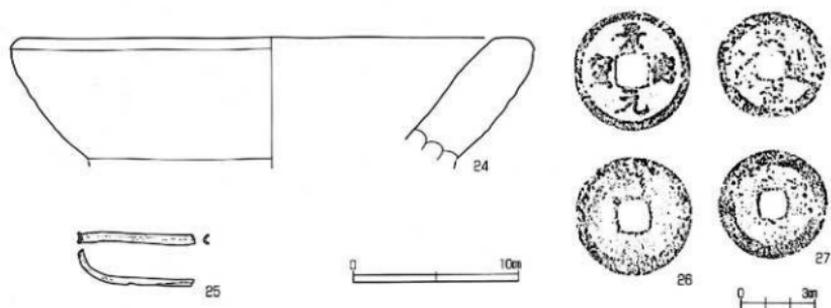


図3 第61次調査出土遺物 (2)



写真1 調査区全景

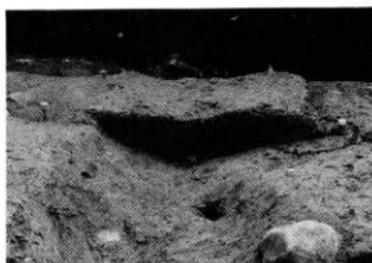


写真2 1号溝セクション



写真3 2号土坑遺物出土状況

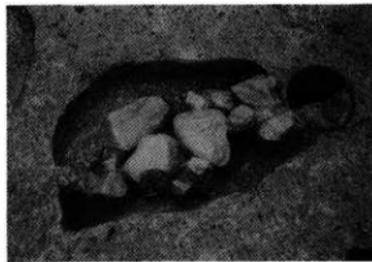


写真4 5号土坑検出状況

表1 第61次調査出土遺物観察表

() 測定値、< > 残存値、単位(cm)

番号	出土地点	種類	器種	測定値			部位	観察など	結	土	焼成	色	調	備考
				口径	高さ	底径								
1	1号溝	土器	かわらけ	(13.5)	(3.45)	(6.8)	口縁部 一部部	ロク口成形 回転糸切り	長石・石英・雲母・金雲母	良	橙	7.5YR 6/6		
2	一括	土器	かわらけ	11.2	2.2	6.0	口縁部 一部部	ロク口成形 回転糸切り	長石・石英・雲母・金雲母	良	橙	7.5YR 6/6		
3	一括	土器	かわらけ	(13.3)	(3.0)	(7.0)	口縁部 一部部	ロク口成形 回転糸切り	長石・石英	良	にじい橙	7.5YR 7/4		
4	5号土坑	土器	かわらけ	(10.1)	(2.6)	(6.0)	口縁部 一部部	ロク口成形 回転糸切り	長石・石英	良	にじい橙	7.5YR 6/4		
5	1号溝	土器	かわらけ	(9.2)	(2.3)	(5.0)	口縁部 一部部	ロク口成形 回転糸切り	長石・石英	良	にじい橙	7.5YR 5/3		
6	一括	土器	かわらけ	9.5	2.2	4.6	口縁部 一部部	ロク口成形 回転糸切り	長石・石英・雲母・金雲母	良	橙	5YR 6/6		
7	1号溝	土器	かわらけ	(8.1)	(1.45)	(5.0)	口縁部 一部部	ロク口成形 回転糸切り	長石・石英・金雲母	良	明赤褐	5YR 5/6		
8	一括	土器	かわらけ	(6.0)	(1.6)	(3.8)	口縁部 一部部	手づくね?	長石・石英・金雲母	良	橙	7.5YR 6/6		
9	一括	土器	かわらけ	(11.0)	(2.3)	-	口縁部 一部部	ロク口成形	長石・石英・金雲母	良	橙	5YR 6/6		
10	一括	土器	かわらけ	(12.0)	(2.5)	-	口縁部 一部部	ロク口成形	長石・石英・金雲母	良	明赤褐	5YR 5/6		
11	一括	土器	かわらけ	(11.0)	(2.2)	-	口縁部 一部部	ロク口成形	長石・石英・金雲母	良	橙	7.5YR 6/6		
12	一括	土器	かわらけ	(8.0)	(1.8)	-	口縁部 一部部	ロク口成形	長石・石英・金雲母・赤色粒子	良	橙	7.5YR 6/6		
13	炭化物期辺	土器	かわらけ	-	(1.4)	(7.6)	底部	ロク口成形 回転糸切り	長石・石英・雲母・金雲母	良	橙	5YR 6/6		
14	一括	土器	かわらけ	-	(1.9)	(6.8)	底部	ロク口成形 回転糸切り	長石・石英・金雲母	良	にじい橙	7.5YR 5/4		
15	一括	土器	かわらけ	-	(2.3)	(11.2)	底部	ロク口成形 回転糸切り	長石・石英・雲母・金雲母	良	明赤褐	5YR 5/6		
16	一括	土器	かわらけ	-	(1.7)	(8.0)	底部	ロク口成形 回転糸切り	長石・石英・雲母	良	橙	7.5YR 6/6		
17	一括	土器	かわらけ	-	(1.8)	(7.6)	底部	ロク口成形 回転糸切り	長石・石英・金雲母	良	橙	5YR 6/6		
18	一括	土器	かわらけ	-	(2.3)	(9.8)	底部	ロク口成形 回転糸切り	長石・石英・雲母・金雲母	良	橙	5YR 6/6		
19	一括	陶器	丸皿?	-	(0.9)	(5.0)	底部		密/灰釉	良好	-	大塚2段階		
20	一括	白磁	碗	(8.0)	(2.4)	-	口縁部 一部部		緻密	良好	-			
21	5号土坑	土器	不明	-	(2.6)	(16.3)	底部		長石・石英・金雲母・赤色粒子	良	橙	7.5YR 6/6		
22	ビット19	青磁	皿	(16.0)	(2.6)	-	口縁部 一部部		緻密	良好	-			
23	一括	青磁	不明	-	(2.5)	-	底部		緻密	良好	-			
24	一括	石製品	石皿	(40.0)	(8.0)	-	口縁部 一部部							
25	一括	青銅製品	不明	長さ 7.1	幅 0.6	厚さ 0.1								
26	一括	鉄貨	景徳元宝	直径 2.45	穿径 0.62	重量 2.8g								
27	一括	鉄貨	洪武通宝	直径 2.28	穿径 0.55	重量 2.5g								

武田氏館跡第62次調査

所在地 古府中町3575-1
調査原因 川脇和人宅新築工事
調査面積 22㎡
調査期間 平成11年5月31日～6月3日
調査担当者 佐々木 満



調査の概要

武田氏館跡隠居曲輪から北東部に位置し、標高359mを測る。城下へ南下する鍛冶小路が東接し、高榊の字名を残している。字名は「古府中村絵図」（中沢泉氏所蔵）にも記載が見られ、堀や牢獄の存在が示唆される地域である。北西40mに位置する第44次調査地点では、中世の溝とピットが確認されている。

調査は2×2mのグリッドを3か所設定し、人力による掘り下げを行った。

遺構

第1・2トレンチは掘削して15cm程度で地山面となった。第3トレンチでピットが2基確認された。ピット1は直径42cm、ピット2は直径16cmを測る。出土遺物がなく、時期は不明である。

遺物

表面採集で土器片が2点出土したが、小片のため図化しなかった。

まとめ

周辺の調査では中世の遺構・遺物が確認されているが、本地点ではピットが2基確認されたのみであった。出土遺物がなため、時期も確定するには至らなかった。



図1 第62次調査トレンチ位置図



写真1 第1トレンチ



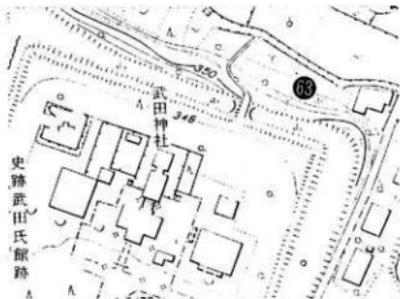
写真2 第2トレンチ



写真3 第3トレンチ ビット検出状況

武田氏館跡第63次調査

所在地 古府中町2777-2、2779-1、2780
調査原因 スポット公園整備
調査面積 350㎡
調査期間 平成12年2月23日～29日
調査担当者 平塚洋一



調査の概要

武田氏館跡を構成する御隠居曲輪の南側に位置し、標高350mを測る。御隠居曲輪は武田信虎正室大井夫人（信玄生母）が隠居生活をした場所と伝承されている。東側には武田氏時代から残る街路が南走する。古絵図によると、本地点北西側に信玄実弟道遙軒信綱の屋敷跡の存在が示され、現在「道軒屋敷」の字名が残っている。

公園整備予定地内に3か所のトレンチを設定して、人力による遺構の確認を行った。

遺構

長径20～100cmを測る礫が確認されたが、遺構の検出はなかった。

遺物

多くは破片資料で図化できたものは少ないが、かわらけ（1・2）、須恵器（3）、土製品（4）、鉢（5）が出土した。かわらけはロクロ成形である。土製品は円盤状を呈し、周縁が研磨されている。

まとめ

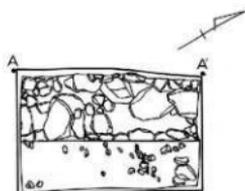
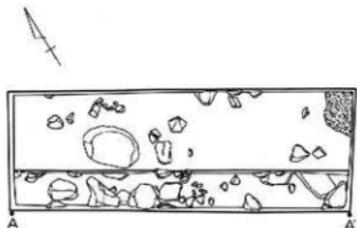
本地点北側80mに位置する第18次調査地点では、石列・溝跡や礫が敷き詰められている状況が確認されており、本調査の礫もこれと関係すると思われる。しかし、限られた調査範囲のため詳細を明らかにするには至らなかった。



写真1 トレンチ3 礫検出状況



写真2 調査終了後風景



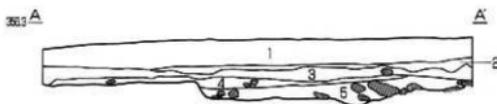
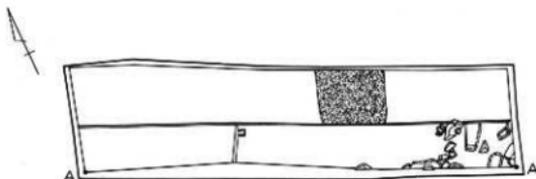
1. 表 土 コンクリート片が混入する。
2. 暗灰色粘土層 小礫を含む。
3. 暗褐色粘土層 大・小の礫を多量含む。
4. 暗褐色粘土層 大・小の礫を多量含む。4層に比べしまりがある。
5. 暗褐色粘土層 大・小の礫を多量含む。
6. 暗褐色粘土層 灰化物・土壌片が混入する。

トレンチ1



1. 表 土 コンクリート片が混入する。
2. 砂 層
3. 暗灰色粘土層
4. 暗褐色粘土層 灰化物・土壌片が混入する。
5. 暗褐色粘土層 礫を含む。

トレンチ3



1. 表 土 コンクリート片が混入する。
2. 暗灰色粘土層
3. 暗褐色粘土層 小礫を含む。
4. 暗褐色粘土層 しまりがある。
5. 暗褐色粘土層 大・小の礫を多量含む。

トレンチ2



図1 第63次調査トレンチ平面図・セクション

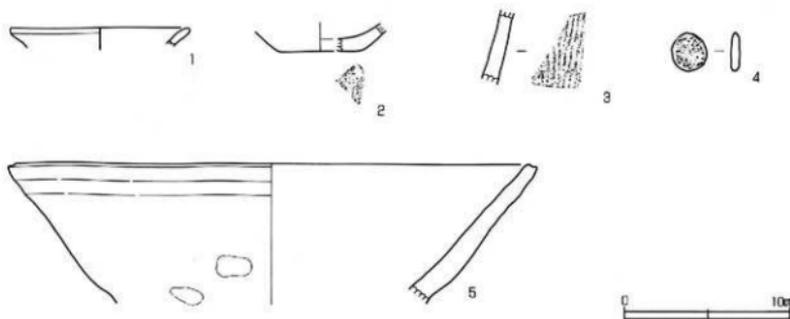


図2 第63次調査出土遺物

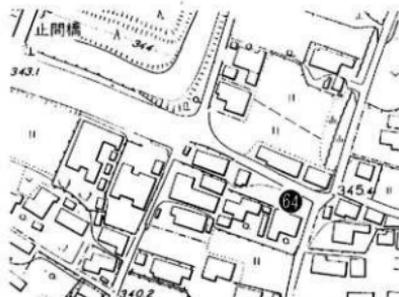
表1 第63次調査出土遺物観察表

() 復元値、< > 残存値、単位(cm)

番号	出土地点	種別	器種	法量			部位	調整など	胎土	焼成色	調備	考
				口径	器高	底径						
1	トレンチ1	土器	かわらけ	(11.0)	<1.2>	-	口縁部	口クロ成形	長石・石英・雲母・金雲母・赤色粒子	良	橙 5YR 6/6	
2	トレンチ3	土器	かわらけ	-	<1.8>	(5.0)	底面	口クロ成形 回転糸切り	長石・石英・金雲母・赤色粒子	良	にぶい橙 7.5YR 7/4	
3	トレンチ3	須恵器	不明	-	<4.4>	-	体部		密	良	灰 N6/	
4	トレンチ1	土器	土製品	直径 2.03	厚さ 0.52	重量 2.5g	完形		密	良	橙 5YR 7/6	
5	トレンチ2	土器	鉢	(31.0)	<9.5>	-	口縁部 - 体部	ナデ成形	長石・石英・金雲母	良	にぶい黄褐 10YR 6/4	

武田氏館跡第64次調査

所在地 大手三丁目3748-2、3748-7
 調査原因 宅地分譲
 調査面積 60㎡
 調査期間 平成13年10月19日～11月2日
 調査担当者 伊藤正彦



調査の概要

武田氏館跡の南西に位置し、標高345mを測る。大正15年発行の「西山梨郡志」所収「古府之図」によると、本地点周辺には穴山伊豆守・高坂弾正・馬場美濃守といった武田氏家臣の名前が記載されており、家臣屋敷の存在が示唆される地域である。

調査区内2か所にトレンチを設定し、重機及び人力による掘り下げを行った。

遺構

溝1条、ピット2基、井戸2基が検出された。

溝 1号溝は最大幅115cm、深さ20cmを測り、N-153°-Wに軸をもつ。溝内からは、かわらけと鉄製品が出土した(図3-4・6)。

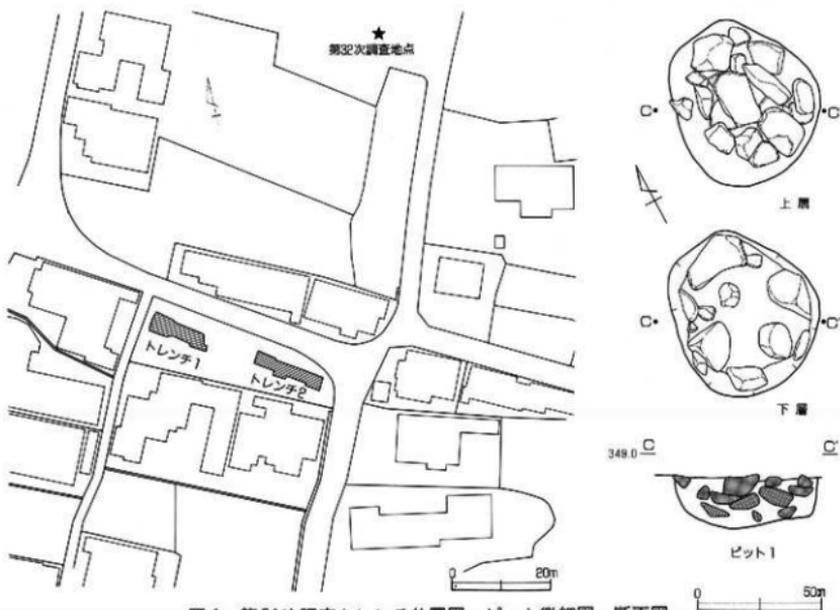


図1 第64次調査トレンチ位置図・ピット微細図・断面図

ピット ピット1は直径60cm、深さ22cmを測る。内部には直径5～20cmの礫が充填していた。ピット2は直径50cm、深さ18cmを測る。

井戸 1号井戸は確認できた部分で直径230cm、深さ40cmを測る。1号溝と重複するが、壁面層の堆積状況から1号溝よりも古い時期と判断できる。内部からは二次焼成を受け、内面に溶融物が付着したかわらけが出土した(図3-1)。2号井戸は確認できた部分で直径240cm、深さ36cmを測る。内部からは、かわらけの破片が出土した。

遺物

出土した遺物の多くは破片資料で、図化できたものは少ない。1～5は、ロクロ成形のかわらけである。そのうち、1・5は見込みに溶融物が付着した二次焼成かわらけである。6の鉄製品には細い針金が巻かれていた。

まとめ

出土遺物から中世のものと思われる遺構が確認されたが、調査範囲に限りがあるため詳細を明らかにするには至らなかった。今後の周辺調査に期待したい。



写真1 トレンチ1 井戸検出状況



写真2 トレンチ2 ピット検出状況



写真3 調査風景

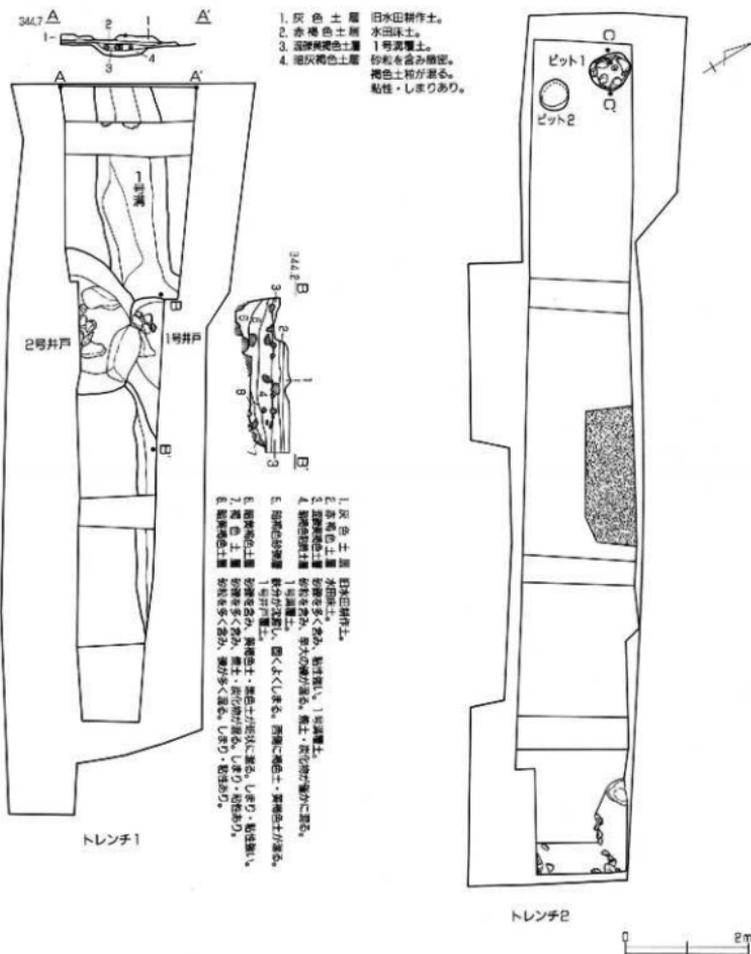


図2 第64次調査全体図・セクション

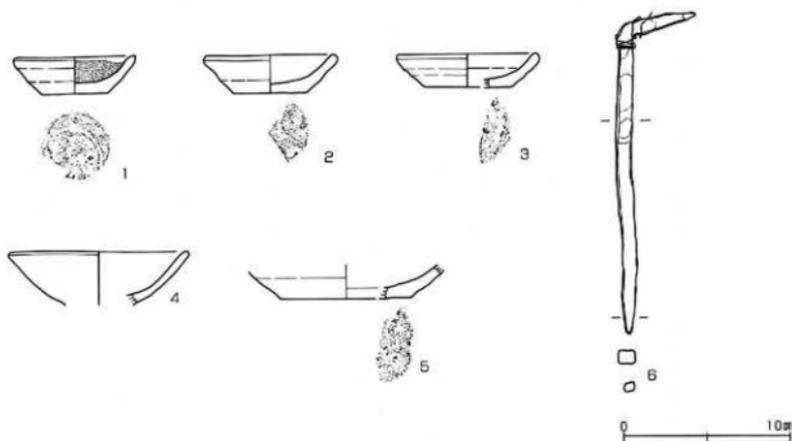


図3 第64次調査出土遺物

表1 第64次調査出土遺物観察表

() 復元値、< > 残存値、単位(cm)

番号	出土地点	種別	器種	口径・高さ・底径	部位	調整など	胎	土	焼成色	調査	備考
1	トレンチ2	土	かわらけ	4.0・2.3・7.2	口縁部 ～底部	ロクロ成形 回転糸切り	長石・石英	良	褐灰 10YR 6/1		溶融物付着
2	トレンチ2	土	かわらけ	(7.7)・(2.4)・(4.4)	口縁部 ～底部	ロクロ成形 回転糸切り	長石・石英・雲母・金雲母・赤色粒子	良	橙 5YR 6/6		
3	トレンチ1	土	かわらけ	(8.4)・(2.1)・(5.0)	口縁部 ～底部	ロクロ成形 回転糸切り	長石・石英・雲母・金雲母・赤色粒子	良	にぶい橙 7.5YR 7/4		
4	1号溝	土	かわらけ	(10.8)・<3.25>・-	口縁部 ～体部	ロクロ成形	長石・金雲母・赤色粒子	良	浅黄橙 7.5YR 8/4		
5	トレンチ2	土	かわらけ	-・<2.1>・(5.0)	口縁部 ～底部	ロクロ成形 回転糸切り	長石・石英・雲母・金雲母・赤色粒子	良	にぶい橙 7.5YR 7/4		見込みに溶融物付着
6	1号溝	鉄製品	不明	長さ 20.0	幅 0.84	厚さ 0.8	定形				針金が巻き付く

第2章 小 括

1. 武田氏館跡周辺調査の成果

第57次～64次調査では中世の溝・土坑・柱穴・井戸が確認され、かわらけ、大窯2・3段階に比定される瀬戸美濃皿、青磁・白磁の破片などが出土した。

中でも特筆すべきは、第57次調査で建物跡と屋敷を区画すると思われる溝がセットで確認されたことである。柱間は建物跡が約2 m 80cm、調査区西側の柱穴列が1 m 80cmである。建物跡と西側柱穴列の間に屈曲して走る2号溝は屋敷を区画するものと考えられるが、建物の配置から見て屋根からの雨水を受ける機能も同時にもち合わせていたと推測される。また、礫を伴う柱穴列は北壁セクションから窺えるように、近代に掘り込まれたものと考えられるが中世の建物跡とほぼ同じ軸をとる配置をしている。東西方向、南北方向ともに柱間は2 mを測る。この他にも重複する柱穴が見られ、数回に渡る屋敷の建て替えが行われたと思われる。

第61次調査でも中世の溝と柱穴が確認されたが、規則性をもつ柱穴列は確認されず、数回に渡る屋敷の建て替えが行われていたものと推測される。

2. 山梨県における15～16世紀代の掘立柱建物跡

山梨県では事例が少ないものの、城郭調査件数の増加による成果の蓄積や研究が進み、建物跡についても建築形式の分類や中世の掘立柱建物跡の変遷が検討されている(室伏2001)。

本章でも、まずは武田氏館跡に相当する時代の掘立柱建物跡が確認された遺跡を簡単にまとめておきたい。

川田館跡 武田氏が永正16年(1519)に鷹岡ヶ崎館に移転するまでの約半世紀の間、居を構えたとき、『甲斐国志』「巻之四十 古蹟部第三」には「信昌ニ至り跡部ヲ退治シテ河田ノ館ヲ築キ遷之ニヤ」との記載が見られる。

掘立柱建物跡は川田館跡が存在したとされる地域で確認されており、館に関係する屋敷跡と推定される。確認された掘立柱建物跡の柱間は、東列で1 m 80cm、1 m 90cm、1 m 20cm、西列で1 m 75cm、1 m 85cm、1 m 20cm、南列で2 m 30cm、2 m 40cm、北列で2 m 60cm、2 mを測る(中山1990)。

勝沼氏館跡 『甲斐国志』によると武田信虎の弟である信友と、その子信元の二代の武田親族として活躍した勝沼氏の館跡とされる。

掘立柱建物跡は郭外の家屋屋敷に存在しており、内郭部は礎石建物であるのが特徴的である。時期は15～16世紀に位置づけられ、第1～3期の変遷が設定されている(室伏2001)。

3. 武田氏館跡周辺における掘立柱建物跡

武田氏館跡味噌曲輪の西側に近接する土屋敷(第33次調査)では一定の規則性をもつ柱穴列が見られ、特にI区では東西約5 m 60cm、南北約2 m 90cm間隔の掘立柱建物跡と屋敷を区画する堀跡が確認されている。A・H区では1 m 80cm間隔の柱穴列が確認されており、これらの建物跡は出土遺物から16世紀代に位置づけられる。柱穴や溝が複雑に入り組んでいる様子は、数回に渡る建物の建て替えが行われた結果と考える。また、東側に掘を設けて屋敷境とし、西側は自然地形の傾斜が強まる所まで屋敷地としているなど、自然地形を利用した屋敷造営が特徴的である(鈴木2002)。

第57次調査では中世の掘立柱建物跡の軸を生かして礫を伴う柱穴列が存在し、土屋敷の

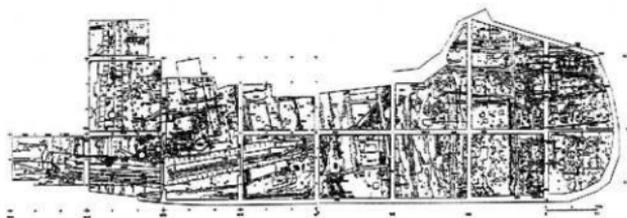
柱穴列とはほぼ同一間隔を測る。これらの例と川田館跡の柱間に大きな差はないが、土屋敷I区の掘立柱建物跡は東西側の柱間に5 m 60cmとっている。これは、勝沼氏館跡の掘立柱建物跡にも見られない規模である。

4. まとめ

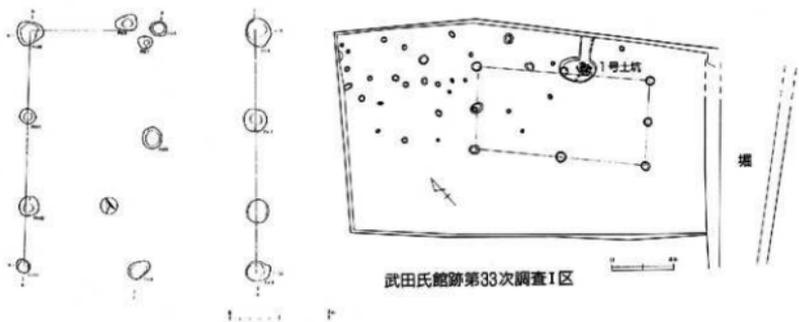
これまでの武田氏館跡周辺調査において確認された掘立柱建物跡は、第33次調査と第57次調査のみであるが、今後の調査で事例が増加する可能性が期待される。したがって、中世の掘立柱建物跡の研究が進みつつある今、現段階における15～16世紀の掘立柱建物跡の事例をまとめておくことも必要であろう。

引用文献

- 鈴木由香 2002 「第2章 小括」『史跡武田氏館跡Ⅷ』甲府市教育委員会 P 68-69
 室伏 徹 2001 「勝沼氏館跡」『武田系城郭研究の最前線』山梨県考古学協会 P 24-31
 中山誠二 1990 「桜井畑遺跡A・C地区」山梨県埋蔵文化財センター



勝沼氏館跡外郭域G地区



川田館跡2号掘立柱建物址

武田氏館跡第33次調査1区

図1 山梨県における15～16世紀の掘立柱建物跡

報 告 書 抄 録

ふりがな	しせきただしやかたあと				
書名	史跡武田氏館跡				
副書名	第57次～第64次調査報告書				
巻次	XI				
シリーズ名	甲府市文化財調査報告				
シリーズ番号	23				
編集機関	甲府市教育委員会				
所在地	〒400-8585 山梨県甲府市丸の内1丁目18番1号 電話 055(223)7324				
発行年月日	平成15年3月31日				
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		調査年度	調査原因
		市町村	遺跡番号	調査面積	
たけだしやかのむす 武田氏館跡	やまなしけんこうふし 山梨県甲府市 こふちゅうまち 古府中町・屋形三丁目・ おほて 大手三丁目	19201	1110	平成10年度 ～ 平成13年度 767.0㎡	現状変更に伴う発掘調査
種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		備考
城館跡	中世	掘立柱建物跡・ 石列・溝・土坑・ ピット・井戸	かわらけ・瀬戸美濃系陶器・ 染付・青磁・白磁・播鉢・ 香炉・石臼・フイゴ羽子・ 銭貨		第59次調査は『武田氏館跡VI』で報告済み

甲府市文化財調査報告23

史跡 武田氏館跡 XI

— 第57次～第64次調査報告書 —

平成15年3月30日

発行 甲府市教育委員会
〒400-8585 山梨県甲府市丸の内1丁目18番1号
TEL 055 (223) 7324
FAX 055 (226) 4889

印刷 榎内田印刷所
〒400-0032 山梨県甲府市中央二丁目10-18

